



学 校 総 覧

College Catalogue 2023

独立行政法人国立高等専門学校機構
鶴岡工業高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF
TECHNOLOGY (KOSEN), TSURUOKA COLLEGE

自学自習 理魂工才

(初代校長 林 茂 助)

校 章



図案 斎藤 求

山形県の「山」の文字を地として、「高専」の両側に出羽の国の「羽」を配し、鶴岡の「鶴」の華麗にして雄々しい羽ばたきを象徴する。

ロゴマーク



直線と曲線は、正確さと柔らかい自由な発想を象徴しており、鶴の飛翔をモチーフに、世界に羽ばたき、そして未来を創造できる人になって欲しいという願いが込められている。(創立 50 周年記念事業の一環として制定)

校 歌

芳賀 秀次郎
斎藤 次郎
作曲 作詞

みちのくに 花咲き匂ひ
みちのくに
最上川 めぐる国原
あゝ吾等
春わかき この丘に立ち
つねに 雄々しく
近代の 叡智磨かむ
みちのくに
みちのくに 海とどろきて
浜なすの 赤き磯山
あゝ吾等
友情の旗 かざしつゝ
真実 ひとすぢ
青春の 日々を歩まむ
みちのくに
みちのくに 風澄みわたり
鳥海の 遠き夕映
あゝ吾等
創造の 精神ゆたけく
地平 遙かに
日本の 未来築かむ

目 次 Contents

1. ごあいさつ	2
2. 創設・発展	2
3. 沿革	3
4. 教育目標と三つの方針	4
5. 組織	6
教職員の現員	6
学校運営組織図	6
会議・委員会等	6
役職員等	7
6. 本科	8
創造工学科	8
基盤教育グループ	9
機械コース	10
電気・電子コース	12
情報コース	14
化学・生物コース	16
7つの応用分野について	18
教育課程	20
7. 専攻科	25
生産システム工学専攻	25
教育課程	26
8. 総合メディアセンター	28
9. 教育研究技術支援センター	29
10. 保健センター	29
11. 国際交流	30
12. 地域連携センター	32
13. 教員の研究活動	34
14. 学生	35
学生の定員及び現員	35
志願者数、受験者数及び入学者数	35
出身学校別学生数	36
出身地別学生数	37
学校納付金、奨学生数	37
15. 卒業後の進路	38
年度別就職・進学状況	38
就職	38
最近3か年の就職先	39
進学（編入学）	40
進学先一覧	40
進学（大学院）	41
大学院進学先一覧	41
卒業後の資格	41
16. 学寮	42
17. 学生会	43
18. 学校行事	44
19. キャンパスマップ	45

1. ごあいさつ

Message from President of NIT(KOSEN), Tsuruoka College



校 長 President

太 田 道 也 OTA, Michiya

鶴岡高専は、昭和38年に鶴岡市に創設された歴史ある国立の高等教育機関であり、今年、創立60周年を迎えます。この間、8,000名以上の鶴岡高専本科卒業生・専攻科修了生がエンジニアや起業家、研究者として、庄内地域を始めとした山形県や全国の各方面で技術革新の牽引役となって産業の発展に大きく貢献してきています。

庄内地域は、日本有数の穀倉地帯である庄内平野、歴史的景観の出羽三山、絹織物、北前船寄港地をはじめとする文化と歴史の香る魅力ある地域です。一方で、この地域に、付加価値の高いものづくりや環境に配慮した技術開発、ニッチトップの産業・企業が集積していることも、地域の魅力の一つであり、また、本校における地域連携を特色のあるものにしています。近年、先端材料や、バイオ、農産物といった強みのある分野を中心としつつ、AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）などを取り込んだ革新的な技術開発が進められており、そこには本校も積極的に連携を図っておりますし、多数の卒業生がリーダーとなって活躍しています。

本校のモットーは、「自学自習・理魂工才」です。自由な校風の下で、自ら学び、真理を探究し、高度な技術力を身につけることを目指しています。自然豊かなキャンパスで、海外からの留学生とともに、博士号を持つ教員から、5年間若しくは7年間にわたり工学の基礎や応用力を学び、世界で活躍できるエンジニアや研究者となる基盤を築くことができます。

こうした本校の特色や取組についてご理解いただき、学びの場、交流の場として大いに期待していただきたいと思います。また、ご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

2. 創 設・発 展

Establishment and Development

昭和30年代後半から、我が国は経済を急速に発展させ、今日の豊かな国民生活を支えてきました。その原動力は産業、とくに製造工業であったことから、工業界は実践力に富む中堅技術者を大量に必要としました。この社会的要請にこたえて、本校は昭和38（1963）年の春に開校しました。

その後の技術革新やハイテク化、そして今日の科学技術立国に至る激動の中で、本校は科学技術者あるいは科学研究者を養成する特徴ある高等教育機関として、工業界において高く評価され信頼を得ています。その特徴は、5年制一貫教育と大学編入学への広い門戸にあります。平成15（2003）年には大学学部と同等の教育研究機能をもつ2年制の専攻科が設置され、学士学位の取得が可能となり、大学大学院への直接進学もできることになりました。そして、平成16（2004）年、独立行政法人化に伴い、地域密着型高専として新しい出発をしました。

3. 沿革 History



昭和37年	8月3日	国立鶴岡工業高等専門学校誘致期成同盟会発足
昭和38年	1月10日	国立工業高等専門学校の鶴岡市設置が正式決定
	4月1日	国立学校設置法の一部を改正する法律により、鶴岡工業高等専門学校（入学定員：機械工学科2学級80名、電気工学科1学級40名）設置；初代校長に理学博士・林茂助（東京工業大学名誉教授）が就任；元鶴岡市立第二中学校校舎を仮校舎とし開校
	4月20日	開校式並びに第1回入学式を仮校舎において挙行
昭和39年	3月30日	本校舎及び学寮竣工
	5月8日	仮校舎より本校舎（鶴岡市大字井岡字沢田104）に移転
昭和42年	4月1日	工業化学科（入学定員：1学級40名）増設
	9月14日	校舎落成記念式典を挙行
昭和43年	3月20日	第1回卒業証書授与式を挙行 卒業生110名（機械工学科70名、電気工学科40名）
	4月1日	第1学年、第2学年全寮制実施
昭和46年	4月1日	第2代校長に斎藤信義（前本校教授・学生主事）が就任
昭和48年	10月26～28日	創立10周年記念行事実施
昭和51年	10月1日	第3代校長に工学博士・渡会正三（前名古屋大学工学部教授）が就任
昭和57年	4月1日	第4代校長に工学博士・染野檀（東京工業大学名誉教授・前長岡技術科学大学教授）が就任
昭和58年	10月15～16日	創立20周年記念行事実施
昭和61年	4月2日	第5代校長に工学博士・清水二郎（元東京工業大学工学部長・同名誉教授）が就任
平成2年	4月1日	機械工学科の2学級のうち1学級を制御情報工学科（入学定員：1学級40名）に改組
平成3年	4月1日	留学生の受入開始
平成4年	4月1日	新制服（コシノジュンコ氏デザイン）新入生から着用；学校週5日制の実施
平成5年	4月1日	第6代校長に工学博士・阿部光雄（東京工業大学名誉教授）が就任；工業化学科を物質工学科（物質・生物コース）に改組
	10月22～24日	創立30周年記念行事実施
平成6年	11月11日	地域協力教育研究センター設置
平成12年	4月1日	第7代校長に工学博士・野中勉（元東京工業大学大学院総合理工学研究科長・同名誉教授）が就任
	11月1日	地域共同テクノセンター設置（地域協力教育研究センター改組）
平成13年	4月1日	総合情報センター設置（電子計算機室改組）
平成14年	7月	運営協議会設置
平成15年	4月1日	専攻科（機械電気システム工学専攻・物質工学専攻）設置；保健管理センター設置；女子寮設置；新制服新入生から着用
	10月24～25日	創立40周年記念行事実施

平成16年	4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立高等専門学校となる。
平成17年	4月1日	電気工学科を電気電子工学科に名称変更
平成18年	4月1日	第8代校長に工学博士・横山正明（東京工業大学名誉教授）が就任
	5月8日	「生産システム工学」教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受ける。
平成21年	1月1日	教育研究技術支援センター設置
	9月15日	国際交流支援室設置
平成23年	4月1日	第9代校長に工学博士・加藤 靖（前仙台高専副校長）が就任
平成24年	1月31日	北陸先端科学技術大学院大学との推薦入学に関する協定締結
	4月1日	図書メディアセンター設置（図書館改組） 学生支援センター、同キャリア支援室設置（保健管理センター改組） 地域共同テクノセンター CO-OP教育推進室設置
平成25年	10月25～26日	創立50周年記念行事実施
平成26年	4月1日	地域連携センター設置（地域共同テクノセンター改組） 保健センター設置（学生支援センター改組）
平成27年	3月1日	長岡技術科学大学他22大学・高等専門学校とeラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定締結
	4月1日	機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科及び物質工学科を創造工学科に改組（入学定員160名） 専攻科機械電気システム工学専攻及び物質工学専攻を生産システム工学専攻に改組（入学定員16名）
	12月25日	山形大学他4大学、山形県他13自治体と地（知）の拠点大学による地方創生事業の共同実施に関する協定締結
平成28年	4月1日	第10代校長に工学博士・高橋幸司（前山形大学工学部教授）が就任 総合メディアセンター設置（図書メディアセンター、総合情報センター改組）
	12月6日	情報セキュリティ大学院大学と包括連携に関する協定締結
平成30年	9月20日	酒田南高等学校との学術交流及び地域貢献に関する協定を締結
令和3年	3月25日	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する令和2年度「高等専門学校機関別認証評価」において、評価基準を満たしていると認定される。
	4月1日	第11代校長に森 政之（前文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課長）が就任
令和5年	4月1日	第12代校長に工学博士・太田 道也（前群馬工業高等専門学校物質工学科長）が就任

4. 教育目標と三つの方針 Educational Goal and Three Policies

基本教育目標

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

本 科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー） ※要約版

- 1 創造工学科のディプロマ・ポリシー
 - (A) 知識を統合し多面的に問題を解決できる構想力
 - (B) 専門分野の基礎知識としての数学など自然科学の知識を活用できる能力
 - (C) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションができる能力
 - (D) 専門分野の知識と情報技術を身につけ、ものづくりに幅広く対応できる実践力
 - (E) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理に基づき行動する姿勢

- 2 コースのディプロマ・ポリシー

機械コース

機械工学等に関する体系的な知識と基盤技術を身につけ、機械、メカトロニクス、材料工学等の視点に立って技術的課題を解決する構想力と実践的能力を備える。

電気・電子コース

電気・電子工学等に関する体系的な知識と基盤技術を身につけ、エレクトロニクス、情報・通信、電気エネルギー技術等の視点に立って技術的課題を解決する構想力と実践的能力を備える。

情報コース

情報工学、システム制御等に関する体系的な知識と基盤技術を身につけ、ハードウェア、ソフトウェア、情報通信技術、制御工学等の視点に立って技術的課題を解決する構想力と実践的能力を備える。

化学・生物コース

化学、生物学等に関する体系的な知識と基盤技術を身につけ、物質・材料、生物工学等の視点に立って技術的課題を解決する構想力と実践的能力を備える。

※本校HPに全体版が掲載されています。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） ※要約版

- 1 創造工学科のカリキュラム・ポリシー
 - (A) 知識を統合し多面的に問題を解決できる構想力を身につけるため、グループワークを取り入れた科目や卒業研究などを編成しています。
 - (B) 専門分野の基礎としての数学など自然科学の知識を身につけるため、数学、物理、化学、生物に関する科目を編成しています。
 - (C) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーション能力を身につけるため、国語、英語、第二外国語に関する科目を編成しています。
 - (D) 専門分野の知識と情報技術、ものづくりに幅広く対応できる能力を身に付けるため、専門基礎、情報処理、実験・実習などの科目を編成しています。
 - (E) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につけるため、人文社会に関する科目を編成しています。

- 2 専門コースのカリキュラム・ポリシー

機械コース では、機械工学分野の専門知識と技術を身に付けるため、機械、メカトロニクス、材料工学に関する授業、演習、実験・実習、卒業研究などを体系的に開講します。

電気・電子コース では、電気電子工学分野の専門知識と技術を身に付けるため、エレクトロニクス、情報・通信、電気エネルギーに関する授業、演習、実験・実習、卒業研究などを体系的に開講します。

情報コースでは、情報工学分野の専門知識と技術を身に付けるため、ハードウェア、ソフトウェア、情報通信技術に関する授業、演習、実験・実習、卒業研究などを体系的に開講します。

化学・生物コースでは、化学・生物分野の専門知識と技術を身に付けるため、物質・材料、生物工学に関する授業、演習、実験・実習、卒業研究などを体系的に開講します。

全ての科目はシラバスに明示した学修到達目標を達成するために、試験、小テスト、レポート等を用いて総合的に評価し、60点以上（1～3学年については50点以上）となることによって単位を認定します。

※本校HPに全体版が掲載されています。

入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

- ◇技術や科学に関心があり、社会に貢献する技術者、研究者への夢を抱いている人
- ◇学習意欲が高く、数学、理科、国語、社会、英語の基礎力が備わっている人
- ◇何事にも粘り強さと責任感を持って積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ◇「ものづくり」に対する専門的知識を身に付けて、将来、課題解決のために活躍するリーダーとなることを志す人

専攻科

修了認定の方針（ディプロマ・ポリシー） ※一部抜粋

1. 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力
2. 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力
3. 専門分野に加えて基礎工学をしっかり身につけた生産技術に関する幅広い対応力
4. 英語力を含めたコミュニケーション力

※本校HPに全体版が掲載されています。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） ※一部抜粋

ディプロマ・ポリシーに示された能力を身に付けることにより、社会情勢の変化にも対応して活躍できる技術者や研究者を育成します。また、専門科目だけでなく広い分野にわたる知識や技術も習得できるよう、以下のようなカリキュラム方針に基づいて編成されています。

- (1) 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力を育成するため、各コース共通として「日本学特論」、「技術者倫理」、「地域政策論」、「環境地理学特論」の一般科目を編成しています。
- (2) 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力を育成するため、「創造工学実習」、「実践的デザイン工学実習」、「専攻科研究Ⅰ」、「専攻科研究Ⅱ」を編成しています。
- (3) 専門分野に加えて基礎工学をしっかり身につけた生産技術にかかる幅広い対応力を育成するため、「応用代数」、「物理学特論」、「データ解析」、「専攻科実験」、「インターンシップ」等を編成しています。
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション力を育成するため、「総合実践英語Ⅰ」、「総合実践英語Ⅱ」を編成しています。英語による論理的な記述、討論等の能力を涵養します。

評価（点数等）	基準
優（80点以上）	研究や実践的問題の解決に際して、講義で学修した内容を応用することができる。
良（70点以上）	講義で用いる教科書レベルの演習問題を解くことができる。
可（60点以上）	講義内容に関する基本的な原理、法則、方程式、学説等を理解している。
不可	学術における当該講義の位置づけを理解していない。

※本校HPに全体版が掲載されています。

入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

1. 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人
2. 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人
3. 技術や科学の専門基礎力を有し、より高度で実践的な技術の修得を目指す人

5. 組織 Organization

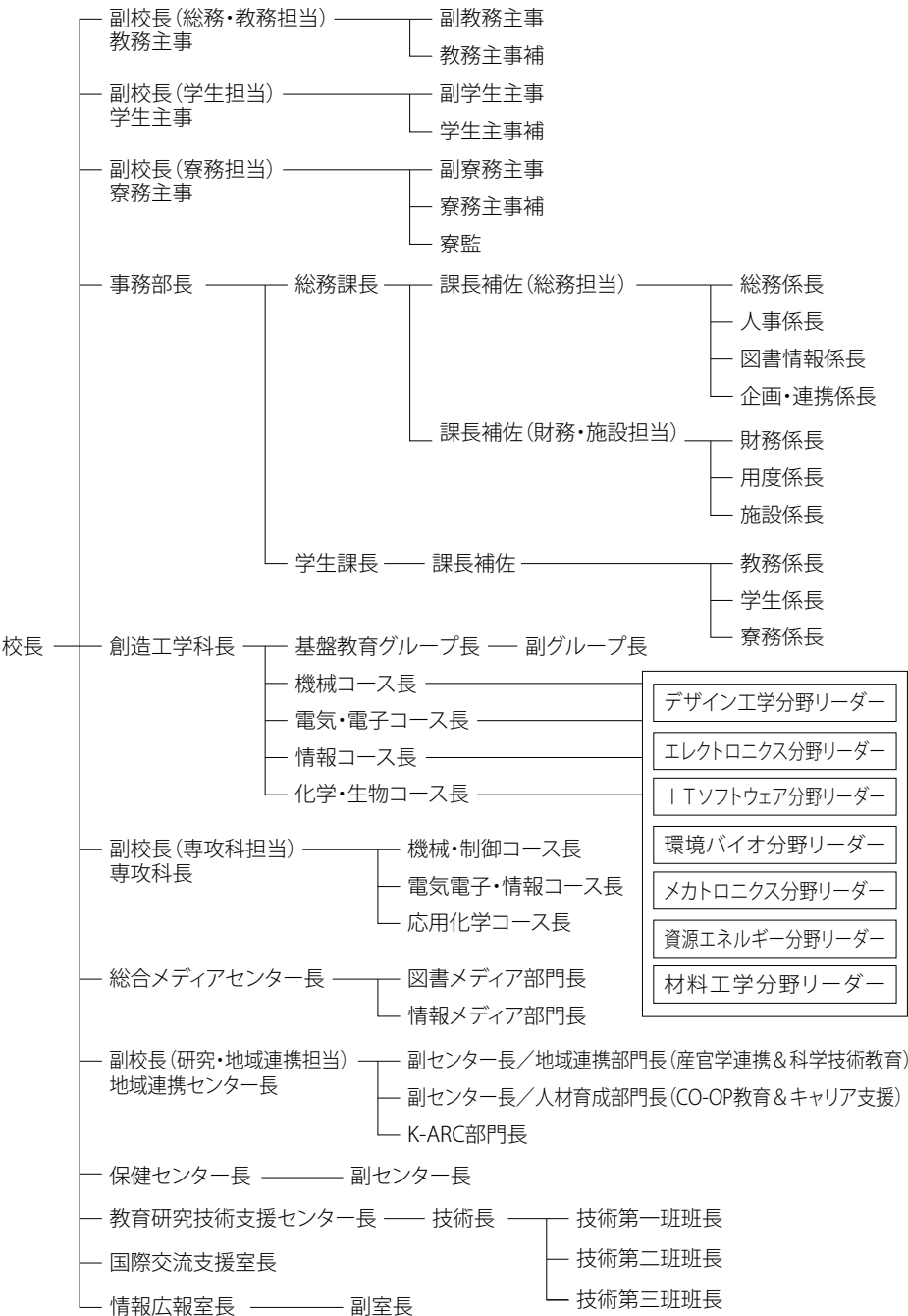
教職員の現員 Actual Number of Staff

令和5年5月1日現在

区分	教 育 職 員												一 般 職 員												合 計		
	校 長		教 授		准教授		講 師		助 教		計		事務系		技術技能系		医療系		教務系		計						
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
現員	1	0	19	0	23	1	3	0	7	6	53	7	60	13	19	0	0	0	1	10	1	23	21	44	76	28	104

(注) 嘱託教授及び嘱託職員を除く。

学校運営組織図 Organization Chart



会議・委員会等

運 営 協 議 会
自己点検・評価委員会
将来構想・戦略会議
運 営 会 議
教 員 会 議
グ ル ー プ 会 議
コ ー ス 会 議
教 務 委 員 会
学 生 委 員 会
寮 務 委 員 会
専 攻 科 委 員 会
入 学 試 験 委 員 会
教 育 改 革 F D 委 員 会
教 育 点 検 委 員 会
教 育 改 善 委 員 会
教 員 業 績 評 価 委 員 会
施設・設備マネジメント委員会
男女共同参画推進委員会
進 路 指 導 委 員 会
いじめ防止等対策委員会
発 明 委 員 会
ハラスメント防止対策委員会
情報セキュリティ管理委員会
情報セキュリティ推進委員会
情 報 公 開 委 員 会
安全衛生・環境保全委員会
教育研究技術支援センター運営委員会
動 物 実 験 委 員 会
組換えDNA実験安全委員会
モデルコアカリキュラム等評価検討委員会
ヒトを対象とする研究倫理審査委員会

(注) 小委員会及び各種チームは除く。

役 職	氏 名
校 長	太 田 道 也
副校長（総務・教務担当）／教務主事	佐 藤 司
副教務主事	大 西 宏 昌
教務主事補	松 橋 将 太
〃	小野寺 良 二
〃	森 谷 克 彦
〃	高 橋 聡
副校長（学生担当）／学生主事	瀬 川 透
副学生主事	小 寺 喬 之
学生主事補	伊 藤 卓 朗
〃	森 隆 裕
〃	久 保 響 子
副校長（寮務担当）／寮務主事	山 田 充 昭
副寮務主事	伊 藤 滋 啓
寮務主事補	本 間 浩 二
〃	丹 生 直 子
〃	チャンフウタン
〃	櫻 庭 崇 紘
寮 監	佐 藤 一 永
副校長（専攻科担当）	戸 嶋 茂 郎
副校長（研究・地域連携担当）	内 山 潔
創造工学科長	佐 藤 司
基盤教育グループ長	阿 部 秀 樹
基盤教育副グループ長	
機械コース長	佐々木 裕 之
電気・電子コース長	宝 賀 剛
情報コース長	佐 藤 淳
化学・生物コース長	南 淳
専攻科長	戸 嶋 茂 郎
総合メディアセンター長	佐 藤 淳
地域連携センター長	内 山 潔
保健センター長	保 科 紳一郎
教育研究技術支援センター長	上 條 利 夫
国際交流支援室長	金 帝 演
情報広報室長	菅 野 智 城
事務部長	佐 藤 俊 次
総務課長	海 野 博 之
課長補佐（総務担当）	大 山 元
課長補佐（財務・施設担当）	中 島 栄 子
総務係長	宮 野 亮
人事係長	宅 井 真 美
図書情報係長	笹 原 孝 紀
企画・連携係長	石 川 良 樹
財務係長	飯 塚 尚 美
用度係長	齊 藤 美 香
施設係長	阿 部 強 士
学生課長	辻 紀 彦
課長補佐	中 島 直 樹
教務係長	岩 崎 聡 子
学生係長	永 井 絵 美
寮務係長	中 島 直 樹
技術長	伊 藤 眞 子

6. 本科 Faculty



創造工学科 Department of Creative Engineering

本校では、地域からの要請により、産業構造の高度化に対応できる融合複合技術者・グローバルエンジニア・イノベーション人材の育成をめざし、平成27年度4月1日に創造工学科を設置しました。

創造工学科は、工学の融合複合分野の知識・技術を習得し、エンジニアリングデザイン能力、コミュニケーション能力およびアントレプレナーシップ（起業家精神）を兼ね備えた、グローバルに活躍できる主体的で創造性豊かな実践的技術者の養成を目指しています。

創造工学科においては、「ものづくり」や工学に興味のある学生を広く受け入れ、1年次において工学の基礎を教育します。2年次・3年次には機械コース、電気・電子コース、情報コース、化学・生物コースの4つの基礎コースに本人の志向や適性とマッチングを図りながら所属コースを決定し、技術者の素養を育成します。

さらに4年次・5年次には、コースを横断して設置される7つの応用分野から1分野を選択し、問題発見及び解決能力等の実践力を養成します。



学科再編のため新設された8号館



最大で180名収容可の大講義室

■教育体制



高度な技術を身につけた優れた実践的技術者として産業界で活躍するためには、専門的な知識や技術の修得はもちろん、幅広い知識や豊かな教養を身につけ人間性を高めることが大切です。そのため
の教科が「一般科目」で、基盤教育グループの教員が担当します。

一般科目は、専門のさまざまな問題を的確にとらえ柔軟に対処できる基本的な能力を養うことを目指す基礎専門科目と、産業界の国際化に対処できる能力と情操豊かで健全な社会人の育成を目指す一般教養科目から成っています。低学年を中心に高学年まで授業が行われ、優れた技術者を養成するための重要な役割を担っています。



1年生 国語 I でのグループワーク

教員及び専門分野 Teaching Staff and Specialties

氏名の五十音順に記載

氏 名 Name	職 名 Title	学位等 Degree	専門分野 Specialties
阿 部 秀 樹 ABE, Hideki	准 教 授 Associate Professor	博士 (英語学) Ph. D.	英語音声学・音韻論、第二言語の音韻習得 English Phonetics and Phonology, L2 Phonology
石 井 智 子 ISHII, Tomoko	助 教 Assistant Professor	修 士 (文学) M. A.	近代におけるキリスト教思想の展開 The Development of Christian Thought in Modern Times
伊 藤 卓 朗 ITO, Takuro	准 教 授 Associate Professor	博士 (生命科学) Ph. D.	細胞機能、生物多様性、地域資源 Cell Functions, Biodiversity, Wild Resources
上 松 和 弘 UEMATSU, Kazuhiro	嘱 託 教 授 Part-time Professor	博 士 (理学) D. Sc.	代数幾何学、複素幾何学 Algebraic Geometry, Complex Geometry
菅 野 智 城 KANNO, Tomoshiro	准 教 授 Associate Professor	修 士 (文学) M. A.	イギリス文学 English Literature
木 村 太 郎 KIMURA, Taro	准 教 授 Associate Professor	博 士 (理学) D. Sc.	微分幾何学 Differential Geometry
田 阪 文 規 TASAKA, Fuminori	准 教 授 Associate Professor	博 士 (理学) D. Sc.	群論 Group Theory
田 邊 英一郎 TANABE, Eiichiro	准 教 授 Associate Professor	教 育 学 修 士 M. Ed.	英語学、英語教育学 English Linguistics, Applied Linguistics
丹 生 直 子 TANSHO, Naoko	助 教 Assistant Professor	学 士 (言語・地域文化) B. A.	英語学 English Linguistics
野々村 和 晃 NONOMURA, Kazuaki	准 教 授 Associate Professor	博 士 (理学) D. Sc.	環論 Ring Theory
花 元 誠 一 HANAMOTO, Seiichi	講 師 Lecturer	博士 (数理学) Ph. D.	整数論 Number Theory
平 井 祐 紀 HIRAI, Yuki	助 教 Assistant Professor	博 士 (理学) Ph. D.	確率論 Probability Theory
本 間 浩 二 HONMA, Koji	教 授 Professor	修士 (スポーツ科学) M. Sport Sc.	ラグビー Rugby Football
松 橋 将 太 MATSUHASHI, Shota	准 教 授 Associate Professor	修士 (体育学) M. P. Ed.	トレーニング方法論 Training Methodology
森 木 三 穂 MORIKI, Miho	助 教 Assistant Professor	修士 (国文学) M. A.	国文学 Japanese Literature
山 田 充 昭 YAMADA, Mitsuki	教 授 Professor	博 士 (文学) D. A.	日本史学 Japanese History

設 備 Equipments

室 名	主 な 設 備
物 理 実 験 室	力学実験器具一式、光学台、水熱量計、電流・電圧計、オシロスコープ、気柱共鳴装置、線スペクトル光源装置、分光計、He-Neガスレーザー装置、GM計数装置、ビデオカメラ、プロジェクト用スクリーン、シンチレーション・サーベイメータ
一 般 化 学 ・ 分 析 化 学 実 験 室	一般化学実験器具一式、紫外可視分光光度計、電気炉、精密電子天秤、蒸溜水製造装置、pHメーター、マイクロピペット、定温乾燥器

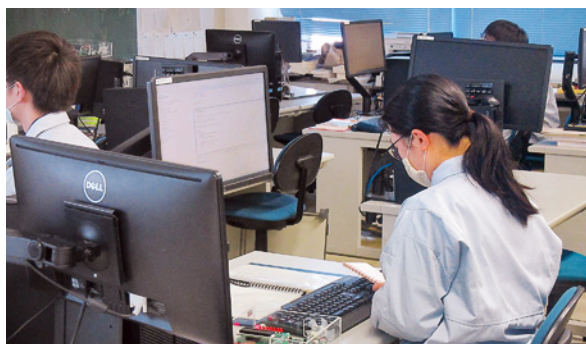
機械コースでは、様々な産業分野で使用される機械の開発・設計や、信頼性の高い製品を効率良く作るための考え方、製造法等を総合的に学習します。具体的には、機械に利用される材料の性質や強さ、その合理的な加工法、水・熱・空気に関する基礎理論や機械の構造と力の伝わり方などの専門知識を学習します。加えて、実験、実習、設計製図を通して、実践技術を身につけます。

さらに、最近では自動化が進み、機械工学の内容は、電気・電子や情報工学の分野とも深い関わりを持つようになってきました。本コースではそれらに対応するために、上記の機械系科目を基本に、情報処理やCADを学習し、実験のデータ処理や解析、設計製図の能率化に役立てます。さらに、マイコン制御、メカトロニクスなどの電気系、制御系科目の基礎も学習し、幅広い知識を身につけます。

卒業研究では教員とのマン・ツー・マンのふれあいにより、豊かな人間性の形成と技術に関する総合的判断力、創造性、応用力、研究及び調査の立案や発表能力を養います。工業界のあらゆる分野で活躍できる教養豊かな機械技術者の育成を目指しています。



2年生「機械製図」ドラフターを使った製図の授業



5年生「工学実験・実習Ⅳ」マイコン制御の実験



5年生「工学実験・実習Ⅳ」流体力学実験



5年生「工学実験・実習Ⅳ」アームロボットによるFA実験



実習工場での実習

教員及び専門分野 Teaching Staff and Specialties

氏名の五十音順に記載

氏 名 Name	職 名 Title	学位等 Degree	専門分野 Specialties	所属分野※
荒 船 博 之 ARAFUNE, Hiroyuki	准 教 授 Associate Professor	博 士 (理学) D. Sc.	材料科学、分析化学 Material Science, Analytical Chemistry	資源 エネルギー
五十嵐 幸 徳 IKARASHI, Yukinori	准 教 授 Associate Professor	工 学 修 士 M. Eng.	材料工学 Material Engineering	材料工学
岩 岡 伸 之 IWAOKA, Nobuyuki	講 師 Lecturer	博 士 (理学) D. Sc.	高分子物理、分子シミュレーション Polymer Physics, Molecular Simulation	デザイン工学
遠 藤 大 希 ENDO, Hiroki	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) D. Eng.	3Dプリンタ、風力・水力エネルギー 3D Printing, Wind / Hydro Energy	デザイン工学
小野寺 良 二 ONODERA, Ryoji	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	計測制御、医療福祉工学 Instrumentation & Control, Medical and Welfare Engineering	メカトロニクス
今 野 健 一 KONNO, Kenichi	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) D. Eng.	生体力学 Biomechanics	メカトロニクス
佐々木 裕 之 SASAKI, Hiroyuki	准 教 授 Associate Professor	博士 (理工学) D. Sc. Tech.	ロボット工学 Robotics	メカトロニクス
穴 戸 道 明 SHISHIDO, Michiaki	教 授 Professor	博 士 (工学)、 技術士 (機械・総監) Ph.D., Professional Eng.	ME工学 Medical Engineering	メカトロニクス
竹 村 学 TAKEMURA, Manabu	教 授 Professor	工 学 修 士 M. Eng.	数理計画 Mathematical Planning	デザイン工学
本 橋 元 MOTOHASHI, Hajime	嘱託教授 Part-time Professor	博 士 (工学) D. Eng.	風力・水力 Wind Power & Micro Hydropower	デザイン工学
矢 吹 益 久 YABUKI, Masuhisa	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	真空工学 Vacuum Engineering	デザイン工学
吉 木 宏 之 YOSHIKI, Hiroyuki	教 授 Professor	理 学 博 士 D. Sc.	プラズマ応用科学 Applied Plasma Science	資源 エネルギー
和 田 真 人 WADA, Masato	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	ソフトロボティクス・メカニクス、トライボロジー Soft Robotics / Mechanics, Tribology	デザイン工学

※右端の「所属分野」は、4年次を選択する応用分野 (P.18) における所属分野である。

設 備 Equipments

区 分	主 な 設 備
実 習 工 場	立形マシニングセンタ、普通旋盤、NC旋盤、立フライス盤、横フライス盤、ホブ盤、ラジアルボール盤、卓上ボール盤、平面研削盤、TIG溶接機、アーク溶接機、ガス溶接機、コンターマシン、射出成形機、ワイヤ放電加工機、ファイバーレーザ加工機、手仕上げ器具一式、3Dプリンタ
製 図 室	パソコン50台、レーザープリンタ2台、SolidWorks 2013
電 子 顕 微 鏡 室	走査電子顕微鏡、三次元測定器
デ ザ イ ン 工 学 分 野	水力実験装置、吹出し式風洞、熱線風速計、燃焼排ガス分析計、放射温度計、FA実験装置、デジタルオシロスコープ、各種トルクメータ、シャルピー試験機、硬度計各種、精密万能試験機、油圧サーボ疲労試験機、パソコン15台、レーザープリンタ3台、風洞実験装置、三分力計、ベッツ型微気圧計、熱線風速計、振動実験装置、超音波風速計、油回転真空ポンプ、太陽電池、鉛蓄電池、往復摺動摩擦試験機、大型UVボックス、3Dプリンター (熱溶解積層方式、光造形方式)、3Dスキャナー、CO2レーザー加工機、卓上ロボットアーム、簡易ドラフト
メ カ ト ロ ニ ク ス 分 野	自操型/介助型車いす、電動車いす、6軸力覚センサ (有線・無線)、慣性センサ、筋電センサ、体圧分布センサ (分布版)、3Dプリンタ、非接触変位計、位相差顕微鏡、落射蛍光装置、CO2インキュベータ、クリーンベンチ、高速遠心機、超低温フリーザ、高圧蒸気滅菌機、脳波計、光トポグラフィ、チルトテーブル、シールドルーム、α波測定器、研究用血流計、心拍計、放射温度計、体圧分布測定装置、ドローン
資 源 エ ネ ル ギ ー 分 野	万能試験機、摩擦試験機、接触角計、真空オープン、エレクトロスピナー、蒸留水製造装置、精密天秤、マイクロ波プラズマ発生装置、高周波マイクロプラズマ源、マルチチャンネル分光器、四重極型質量分析装置、RF電源、紫外可視分光光度計
材 料 工 学 分 野	万能金属顕微鏡、焼入用電気炉、硬度計、超耐熱材料作製システム (放電プラズマ焼結機)、自動乳鉢、手動式ミニプレス、自動研磨装置、真空乾燥システム、実験用遊星回転ポットミル、イメージファーンエス、簡易型グローブボックス、試料樹脂込め装置

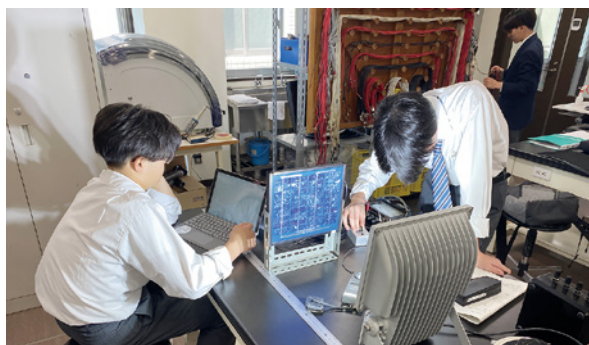
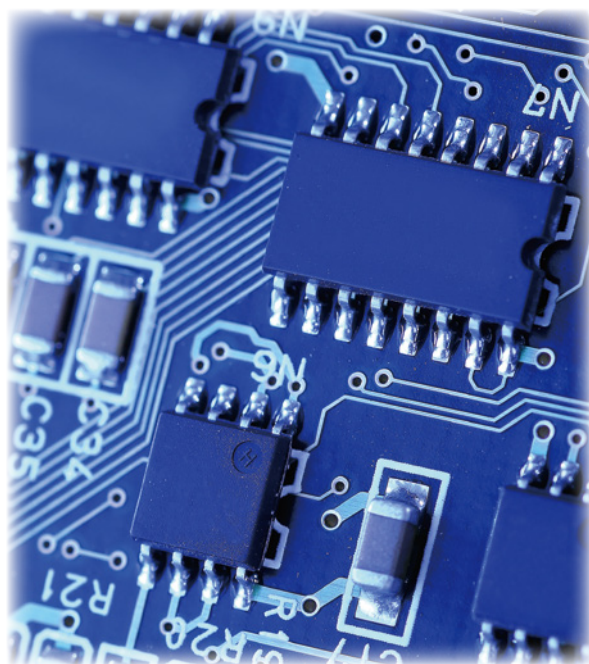
電気・電子コースでは、現代社会に欠くことのできない『エレクトロニクス』、『情報・通信』、『電気エネルギー』の3分野を教育の柱とし、各分野のバランスのとれた学習で急激に発展する産業界で活躍できる創造性豊かな総合電気電子技術者の養成を目指しています。

具体的には、家庭の各種電化製品の便利な機能と深く関わるエレクトロニクスやマイクロコンピュータの活用、コンピュータによる情報処理とITやインターネットなどと密接に関係する情報通信、それにこれらの電気電子機器やコンピュータから新幹線まであらゆるところで不可欠な電気エネルギーの発生等、電気電子の基礎から応用までをアナログ、デジタル両面から学習することができます。

またコンピュータに関係しては、1年生から5年生まで満遍なくプログラミングや情報処理について演習中心に学び、高学年ではeラーニング教材によるIT教育も取り入れ、ハードウェアからネットワークシステムに関するソフトウェアまでを学習してマルチメディアに対応できる基礎を身に付けることができます。

他方高学年で、必要な科目を選択して修得し、さらに定められた実務経験によって第2種電気主任技術者の資格認定を受けることができます。

教室での授業以外にインターンシップや工場見学で実社会の見聞を広め、卒業研究では教員が学生一人一人に対し、研究テーマの選定、研究の進め方、論文のまとめ方、プレゼンテーションの仕方等の指導を行っており、自分で計画・立案・実行できる技術者が育つ環境が整っております。



3年生 太陽電池の実験



3年生 論理回路の実験



4年生 誘導電動機の実験



5年生 ロボットプログラミング



5年生 高電圧実験

教員及び専門分野 Teaching Staff and Specialties

氏名の五十音順に記載

氏 名 Name	職 名 Title	学位等 Degree	専門分野 Specialties	所属分野※
内 山 潔 UCHIYAMA, Kiyoshi	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	電気電子材料 Electrical and Electronic Materials	材料工学
神 田 和 也 KANDA, Kazuya	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	センサ工学 Sensor Electronics	メカトロニクス
櫻 庭 崇 紘 SAKURABA, Takahiro	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) D. Eng.	制御工学 Control Engineering	メカトロニクス
田 中 勝 TANAKA, Masaru	准 教 授 Associate Professor	修 士 (工学) M. Eng.	電気電子材料 Electrical and Electronic Materials	材料工学
チャンフウタン TRAN Huu Thang	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	電力工学 Electric Power Engineering	エレクトロニクス
宝 賀 剛 HOGA, Takeshi	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	電気電子材料 Electrical and Electronic Materials	材料工学
保 科 紳一郎 HOSHINA, Shinichiro	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	電波工学 Microwave Technology	メカトロニクス
森 谷 克 彦 MORIYA, Katsuhiko	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	電気電子材料 Electrical and Electronic Materials	材料工学
渡 部 誠 二 WATANABE, Seiji	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	デジタル信号処理 Digital Signal Processing	メカトロニクス

※右端の「所属分野」は、4年次に選択する応用分野（P.18）における所属分野である。

設 備 Equipments

部屋/場所/区分/応用分野等	主 な 設 備
エレクトロニクス	近赤外分光測定装置、微弱分光測定装置環境モニタリングシステム、ロジックアナライザ、分光器、光干渉計システム、レーザ装置、光パワーメータ、LCRメータ、ピコアンペアメータ、赤外線温度計、光学顕微鏡、マルチチャンネル分光計、照度計、輝度計、球形光束計、NI ELVIS、NI MyDAQ、MATLAB/Simulink、NI LabVIEWキット、サーバマシン、FPGA評価ボード、ワークステーション、オシロスコープ
メカトロニクス	ネットワークアナライザ、電波暗箱、標準アンテナ、スペクトラムアナライザ、信号発生器、ロジックアナライザ、オシロスコープ、マルチメータ
資源エネルギー	直流電動機、直流発電機、三相同期発電機、単相および三相誘導電動機、三相同期電動機、変圧器、動力計、シリコン整流装置、インバータ、サイリスタ実験装置、300kV衝撃電圧発生装置、100kV交流電圧発生装置、100kV直流電圧発生装置、RF電源、燃料電池特性評価装置、LCRメータ、デジタルオシロスコープ、デジタルマルチメータ、シーケンサ
材 料 工 学	恒温恒湿装置、恒温槽、超高真空スパッタリング成膜装置、真空蒸着装置、エアロゾルデポジション薄膜形成装置、スピンコーター、抵抗線加熱蒸着装置、ディップコーター、スクリーン印刷機、ガス置換電気炉、プロフェッショナルメータ（pH、導電率）、スポットUV照射装置、超純水製造機、振動試料型磁力計、極低温特性測定システム、ホール測定装置、ソースメジャーユニット（2ch）、膜厚モニター、ブローパー、LCRメーター、電界放出形走査電子顕微鏡、大口径エネルギー分散型X線分析装置、イオン化ポテンシャル測定装置
基 礎 計 測	直流安定化電源、電圧計、電流計、発信器、ファンクションジェネレータ、デジタルマルチメータ、オシロスコープ

情報技術を活用したシステムの進歩は、世界の人々の生活を格段に豊かにしています。日進月歩で次々と新しい発想や技術が生まれている今日において、発想力や実践力のある技術者を目指して学習しています。

情報コースでは、情報工学にかかわるソフトウェア工学、情報ネットワーク工学、コンピュータ工学などのソフトウェア系やハードウェア系、ならびにシステムの制御に関連した専門知識を修得します。

4年次に選択する7分野のうち、情報コース在籍者が選択できる分野は、ITソフトウェアとメカトロニクスとの2分野となっています。

ITソフトウェア分野では、情報工学に関する基礎専門知識や実践能力を身につけた高度情報化社会に適応できる技術者を養成します。

機械工学、電気電子工学、情報工学、制御工学の知識を融合させたメカトロニクス分野では、人間の生活向上にかかせない産業ロボットや人間支援ロボットなどを開発、製造できる技術者を養成します。

課題発見解決型教育である実験、実習、ゼミでは、理論の裏付けを行いながら、各分野（電気電子系、機械系、情報系、制御系）間の有機的なつながりを十分な時間をかけて学びます。また、在学中に情報処理技術者試験、英語検定試験などの国家試験にチャレンジできる力を養います。最終学年では、個別指導のもとで卒業研究を行い、総合的な応用力の向上を図り、創造的・実践的技術者を目指していきます。



情報コース（3号館）



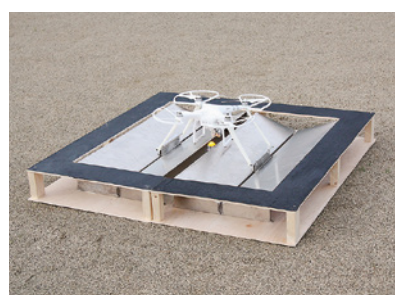
4年生「校外実習」企業見学により最新技術トレンドを現場に学ぶ



3年生「実験実習」サーボモーターを用いたロボットハンド（自動お茶汲み機）の性能評価



5年生「卒業研究」AI機械学習を応用による複数ロボットの自律的協調制御



5年生「卒業研究」UAVの自動充電装置

教員及び専門分野 Teaching Staff and Specialties

氏名の五十音順に記載

氏 名 Name	職 名 Title	学位等 Degree	専門分野 Specialties	所属分野※
安 齋 弘 樹 ANZAI, Hiroki	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) Ph. D.	計算電磁気学 Computational Electromagnetics	ITソフトウェア
遠 藤 博 寿 ENDO, Hirotoshi	准 教 授 Associate Professor	博 士 (理学) Ph. D. (Science)	海洋生物学、遺伝子工学、生物情報科学 Marine Biology, Genetic Engineering, Bioinformatics	ITソフトウェア
大 西 宏 昌 OHNISHI, Hiromasa	教 授 Professor	博 士 (理学) D. Sc.	理論固体物理学 Theoretical Solid State Physics	ITソフトウェア
金 帝 演 KIM, Jeyeon	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) Ph. D.	位置特定、センシング、農業ICT Positioning, Sensing, ICT for agriculture	ITソフトウェア
倉 田 か り ん KURATA, Karin	助 教 Assistant Professor	修士 (経営学) M. A.	計量書誌学、統計学 Bibliometrics, Statistics	ITソフトウェア
佐 藤 淳 SATO, Jun	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	計算機工学 Computer Engineering	ITソフトウェア
サラウッディン ムハマド ザリム ザビル ZABIR, Salahuddin, Muhammad, Salim	教 授 Professor	博士 (情報科学) Ph. D.	情報ネットワーク、IoT、人工知能の応用、データサイエンス、ICT技術の応用 Information Network, IoT, Data Science, AI Applications, ICT Applications	ITソフトウェア
高 橋 聡 TAKAHASHI, Sou	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) Ph. D.	センサ工学 Sensor Engineering	ITソフトウェア
田 中 勇 帆 TANAKA, Yuho	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) Ph. D.	信号処理、データアナリシス Signal Processing, Data Analysis	ITソフトウェア
森 隆 裕 MORI, Takahiro	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) Ph. D.	生体医工学、バイオメカニクス Biomedical Engineering, Biomechanics	メカトロニクス

※右端の「所属分野」は、4年次に選択する応用分野（P.18）における所属分野である。

設 備 Equipments

部屋/場所/区分	主 な 設 備
情 報 コ ー ス	MATLAB/Simulink、Siemens PCS7、Siemens TIA Portal、Omron Sysmac Studio、Omron CX-one、Siemens S7-1500、Siemens S7-1200、GeForce RTX 3070 Ti 8GB GDDR6X PCI Express 4.0 Graphics Card、Phantom 3 advanced、AMOS、SPSS、Markforged ONIX one、Elitech RC-4、Walfront Wal frontnydaor0hiz-02、三次元モデリングソフト (Rhino 7)、き裂進展モニタ (CGM-7)、ホプキンソン棒法衝撃試験機、デジタルオシロスコープ (WavePro 751Zi)、マルチ入力データロガー (NR-600)、遺伝子解析用ソフトウェア (ゼネティクス、Genetyx Ver. 16)、塩基配列解析用ソフトウェア (Dotmatics、SnapGene)、微量分光光度計 (Thermo Fisher、Nano Drop Lite Plus)、マイクロインジェクター (Narishige、IM-12)、セルカウンター (Denovix、CellDrop-FL)、5段階インキュベータ (EYELA、Temperature-Gradient Incubator/MTI-201)、インキュベータ (NK systems、Bio-Incubator/LP-130P)、蛍光実体顕微鏡 (Olympus、SZX7、U-RFL-T)、正立顕微鏡2台 (Olympus、BX53、CX33)、倒立顕微鏡 (Olympus、CKX41 (Olympus))、Thermal Cycler (TaKaRa、Dince)、Trans-Illuminator (UVP、LMS-20)、微量遠心機 (TOMY、AX-501)、オートクレーブ (TOMY、LBS-245)、自作電波暗室、自作大出力マイクロ波発信器

今、世界は、地球温暖化が原因とも考えられている気象変動や資源の枯渇に対する不安、経済発展によるエネルギー消費量の増大等、これまでに私たちが経験してきたことのない様々な課題で溢れようとしています。どこかの国の出来事がすぐに世界を巻き込んだ問題へと変化していきます。

このような世界規模のめまぐるしい変化の中で生活水準を維持し、さらに発展させるためには、これまでに無い物質や材料の開発が絶対に必要になります。また、既にある製品のリサイクル方法や効率の良い生産方法の発見も重要な課題です。

そこで「化学・生物コース」では、これからやって来る様々な課題に対応することが出来る技術者・研究者を養成することを目的として、物質・材料や、バイオテクノロジー等の基礎を学ぶために必要な学習環境を提供します。学習の基本は豊富な実験・実習であると考え、これらの時間を確保し、新技術の開発や応用についての基礎的な理論と実践を低学年から学びます。そして4年生からは基礎応用技術を主とした「材料工学」「資源エネルギー」「環境バイオ」の3分野から選択できるようになります。卒業研究では「1人に1テーマ」のもとで少人数教育を行い、技術者・研究者となるために必要な知識やセンスを学ぶことができます。



2年生 学生実験



3年生 学生実験



4年生 学生実験



4年生 学生実験レポート指導



5年生 卒業研究

教員及び専門分野 Teaching Staff and Specialties

氏名の五十音順に記載

氏 名 Name	職 名 Title	学位等 Degree	専門分野 Specialties	所属分野※
阿 部 達 雄 ABE, Tatsuo	助 教 Assistant Professor	博 士 (工学) D. Eng.	環境化学、イオン交換、生物無機化学 Environmental Chemistry, Ion Exchange, Biological Inorganic Chemistry	環境バイオ
伊 藤 滋 啓 ITO, Shigeharu	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	無機化学、結晶化学、材料科学 Inorganic Chemistry, Crystal Chemistry, Material Science	資源 エネルギー
上 條 利 夫 KAMIJO, Toshio	教 授 Professor	博 士 (理学) D. Sc.	分析化学、材料科学、トライボロジー Analytical Chemistry, Material Science, Tribology	資源 エネルギー
久 保 響 子 KUBO, Kyoko	助 教 Assistant Professor	Dr. rer. nat. Dr. rer. nat.	微生物生態学、環境微生物学、分子生態学 Microbial Ecology, Environmental Microbiology, Molecular Ecology	環境バイオ
小 寺 喬 之 KODERA, Takayuki	准 教 授 Associate Professor	博 士 (工学) D. Eng.	化学工学、無機化学、材料化学 Chemical Engineering, Inorganic Chemistry, Material Chemistry	資源 エネルギー
斎 藤 菜 摘 SAITO, Natsumi	准 教 授 Associate Professor	博 士 (薬学) D. Phar.	微生物工学、生化学 Microbial Engineering, Biochemistry	環境バイオ
佐 藤 司 SATO, Tsukasa	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	高分子化学 Polymer Chemistry	材料工学
瀬 川 透 SEGAWA, Toru	教 授 Professor	理 学 博 士 D. Sc.	有機化学、有機光化学 Organic Chemistry, Organic Photochemistry	材料工学
戸 嶋 茂 郎 TOSHIMA, Shigero	教 授 Professor	工 学 博 士 D. Eng.	電気化学 Electrochemistry	材料工学
八 須 匡 和 HACHISU, Masakazu	講 師 Lecturer	博 士 (理学) D. Sc.	生体分子化学、有機合成化学 Biomolecular Chemistry, Synthetic Organic Chemistry	資源 エネルギー
松 浦 由美子 MATSUURA, Yumiko	助 教 Assistant Professor	博 士 (理学) D. Sc.	無機化学、触媒化学 Inorganic Chemistry, Catalytic Chemistry	材料工学
南 淳 MINAMI, Atsushi	教 授 Professor	博 士 (理学) D. Sc.	分子生態学、植物生理学 Molecular Ecology, Plant Physiology	環境バイオ
森 永 隆 志 MORINAGA, Takashi	教 授 Professor	博 士 (工学) D. Eng.	高分子化学、材料化学 Polymer Chemistry, Material Chemistry	資源 エネルギー

※右端の「所属分野」は、4年次に選択する応用分野 (P.18) における所属分野である。

設 備 Equipments

室名	部屋/場所/区分	主 な 設 備
分 析 装 置	分 光 分 析	高周波誘導結合プラズマ発光分光分析装置 (ICP)、誘導結合プラズマ質量分析法 (ICP-MS)、ダブルビーム分光光度計、原子吸光度計、フーリエ変換赤外分光分析装置 (FT-IR)、多角度光散乱検出器、紫外可視分光光度計、蛍光分光光度計
	電 磁 気 分 析	フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR)、走査型X線光電子分光分析装置 (XPS)、X線回折装置 (XRD)
	電 気 分 析	周波数応答解析装置、走査型電気化学顕微鏡、交流インピーダンス測定装置、電池充放電試験装置、燃料電池評価装置
	分 離 分 析	高速液体クロマトグラフ (HPLC)、イオンクロマトグラフ (IC)、ガスクロマトグラフ (GC)、ゲル透過クロマトグラフ (GPC)、低速タンパク質クロマトグラフ、ガスクロマトグラフィ質量分析装置 (GCMS)
	そ の 他 の 分 析	示差熱・熱重量同時測定装置 (TG-DTA)、示差走査熱天秤装置 (DSC)、熱機械分析装置 (TMA)、走査型電子顕微鏡 (SEM)、電界放出型走査電子顕微鏡 (FE-SEM)、電界放出形電子顕微鏡・エネルギー分散形X線分析装置 (EDS)、レーザー顕微鏡、レーザー回折式粒度分布測定装置、比表面積測定装置、原子間力顕微鏡 (AFM)、DNAシーケンサー、フローサイトメータ、リアルタイムPCR装置、遺伝子増幅装置、材料試験機、蛍光顕微鏡、透過型電子顕微鏡 (TEM)、共焦点レーザー走査型顕微鏡 (CLSM)、摩擦摩耗試験装置
製 造 装 置 な ど	化 学 工 学 系	高速遠心機、ディスペンサー、UV照射装置、エレクトロスピンニング、凍結粉碎機
	生 物 工 学 系	超低温フリーザー、エアインキュベーター、低温インキュベーター、CO2インキュベーター、バイオシェーカー、超音波ホモジナイザー、動物飼育制御装置、超純水製造装置、クリーンベンチ、人工気象器、真空遠心濃縮装置
	そ の 他	ドライルーム、低湿度グローブBOX、低酸素グローブBOX

7つの応用分野について 7 Application Fields

平成27年度より改組した創造工学科は、工学的基礎力、エンジニアリングデザイン能力、英語コミュニケーション力を強化しグローバルエンジニアを育成します。融合複合によるイノベーション人材育成と起業家精神を涵養します。専門知識の定着させるため、学習プロセス重視のアクティブラーニングを導入します。

2～3年次に機械、電気・電子、情報及び化学・生物の4コースに所属し、4～5年次には応用分野である専門4分野：デザイン工学分野、エレクトロニクス分野、ITソフトウェア分野、環境バイオ分野と融合複合3分野：メカトロニクス分野、資源エネルギー分野、材料工学分野から各自が選択し所属します*。

この7分野は、社会動向及び地域ニーズを反映させた内容となっており、問題発見・解決能力等の実践力を養成することを目的に設置されるものです。

4年次では、創造工学科の必修科目、各コース・各分野の必修科目のほかに、各分野及び一般科目の選択科目の中から履修科目を選択します。

※所属コースによって一部選択不可の分野があります。

エレクトロニクス分野 Electronics Engineering

本分野では、デジタル信号処理と電子回路を主とした「ICT・IoT活用」、「デジタル信号処理」、「組み込みシステム」、「電力エネルギー」、「固体物性」、「数値シミュレーション」、「独立成分分析」等の専門、e-ラーニング教材を利用したIT教育によるハードウェアからネットワークシステムに関するソフトウェアまでマルチメディアに対応できる基礎を学習します。

養成する学生像

電力・電子機器、光応用機器等を備え、エレクトロニクスやマイクロコンピュータ、情報処理、インターネットやIT等に関係する情報通信等の社会基盤を支えていく独創的・実践的な人材を養成します。また、エレクトロニクスでは半導体素子、電子回路、集積回路等の電子部品の開発・利用にも必要な技術です。そのため、アナログ回路やデジタル回路等の半導体産業、音声・画像・通信等の信号処理が必要なソフトウェア・通信産業等の各産業の業界エンジニアとして活躍が期待されています。

デザイン工学分野 Design Engineering

本分野では、機械分野を中心とした科目を学び、エンジニアリング・デザイン（種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン）能力を育成し、機械装置における、構想、企画、設計、製造、流通、保守、廃棄、再生に関連する技術を、社会情勢に即して探求することが分野の方針です。

養成する学生像

数学・物理学の基礎力を確実に身につけた上で、機械製品をデザインするために必要な力学（機械力学、材料力学、熱力学、水力学）、機構学、加工学、生産工学を正しく理解し、応用することのできる人物が、本分野の養成する学生像です。また、機械デザインの技術者としてきわめて大切な図面を正しく読み、描くこと、ならびに多様な設計に対応できるよう教育します。将来は自動車、重工業、精密機械、電機分野など、日本の根幹をなす産業で活躍できるような人材を育成します。

ITソフトウェア分野 IT and software

ITソフトウェア分野では、情報工学に関する基礎・専門知識や実践能力を身につけた高度情報化社会に適應できる技術者・研究者を養成するための研究活動を行います。そのために情報コースの教育課程で身につけたソフトウェア工学、情報ネットワーク工学、コンピュータ工学などのソフトウェア系やハードウェア系、システムの制御に関連した専門知識を生かした研究活動を行い問題発見・解決能力など実践力を養成します。

養成する学生像

ITソフトウェア分野は爆発的に進化・拡大する情報化社会における中核となる技術です。そのため、システムエンジニア、プログラマー、サービスエンジニアなどの幅広い情報系の職種でコンピュータ業界、自動車や航空機、コンピュータ、半導体などの各種メーカーやサービス業での活躍が期待できる専門知識と実践的能力を持つ学生の養成を目指します。

環境バイオ分野 Environmental and Biological Engineering

工業は、資源やエネルギーを多量に消費するこれまでの在り方から、環境へのインパクトを最小限に抑えた持続可能なものへと変わることが求められてきています。この持続可能社会の実現に貢献する新素材開発やバイオテクノロジーの技術は、近年、めざましく発展しています。

環境分野では、微生物学、分子生物学、生化学、環境化学、分析化学などの学問領域を基盤に、土壌・海洋の有用微生物探索、微生物発酵、野生植物の生態研究、水環境改善の技術開発などをテーマとした未踏領域の先進研究を行います。

養成する学生像

科学技術の進歩に対応できる、化学・生物・環境系の専門知識と実践能力を修得します。化学工学、石油化学、繊維、医薬品、食品など化学を基盤とした製造業、あるいは環境、バイオテクノロジーの分野において技術者、研究者として活躍する人材を養成します。

資源エネルギー分野 Natural Resources and Energy

機械、電気・電子、化学・生物の3コースが集結して、資源エネルギーの創製と利用に関する分野横断型の研究を推進します。材料科学、有機化学、化学工学、トライボロジーなど多岐にわたる学問領域を基盤として、低環境負荷のプロセス開発、新素材やエネルギーデバイスの創製、微粒子合成法の開発などの研究アプローチで持続可能な社会の実現を目指した課題に取り組みます。

養成する学生像

これからの産業界では、自分が得意とする専門を基盤として広い領域の技術者や研究者と交わりながら課題解決していく能力が必要です。資源エネルギー分野では、機械、電気・電子、化学・生物のそれぞれ専門の知識を深化させると同時に、幅広い科学技術の動向を把握し、専門領域外の人にも研究を発信できるスキルを身につけます。広い視野と分野横断的なセンスを持ち、新しい視点で考えて課題解決に取り組むことができる人材を養成します。

メカトロニクス分野 Mechatronics

いまメカトロニクス分野の発展はめざましく、機械は知性を得て自動化・自律化を遂げつつある時代です。この劇的な変化は身の回りの家電、クルマ、医療、介護、農業、ものづくりと多岐に及ぶとみられ、私たちの暮らしそのものを変えようとしています。メカトロニクスは、機械・電気・電子、情報をかけ合わせた分野横断的な研究分野であり、垣根を超えた幅広い領域での研究活動を実現します。

養成する学生像

メカトロニクス分野では、センシング、情報処理、制御技術などの高度な専門技術を基盤とし、これらの融合・複合技術によって生み出される機械の知能化などの先進的なメカトロニクス技術を修得します。快適な移動を可能にする輸送機器や人間の生活向上に欠かすことができない人間支援ロボット等を開発できる、各種産業界での中核を担う実践的エンジニアを養成します。

材料工学分野 Materials Engineering

材料工学分野では、「超耐熱材料」、「機能性薄膜」、「燃料電池」、「太陽電池」、「MEMS」、「高分子材料」、「表面処理・湿式成膜」、「有機合成」、「バイオマス」などを専門とする分野所属教員のもと、特に「ものづくり」を研究テーマの中心に考え、デバイス化を含めた新素材に関する研究活動を行います。また、分野所属教員以外の教員とも連携を図り、各種現象の考察や新素材の開発を行い、各コースの特色を活かしつつ研究活動を行っていきます。

養成する学生像

機械コース、電気・電子コース、化学・生物コースの各専門知識を修得し、新素材や新規デバイスの開発・評価や特異な現象の解析を行うことで、問題発掘・解決能力を磨き、様々な現象を注意深く観察し、論理的に挑戦しようとする学生、柔軟な発想と積極的な行動力を持つ学生、そして応用力豊かな実践的技術者を目指し、新たな価値や様々な分野における改善（イノベーション）を生み出す人材を養成します。

教育課程 Curriculum

一般科目

創造工学科

区分	授業科目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
主要基礎科目	国語Ⅰ～Ⅲ	9	3	3	3		
	地理	3	3				
	倫理	2	2				
	歴史Ⅰ・Ⅱ	4		3	1		
	政治・経済	2			2		
	数学Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	11	4	4	3		
	数学Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	6	2	2	2		
	英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	8	3	3	2		
	英語Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	8	3	3	2		
	化学Ⅰ・Ⅱ	4	3	1			
	物理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	5	1	2	2		
	生物	1	1				
	音楽	1	1				
主要科目	美術	1		1			
	保健・体育Ⅰ～Ⅲ	7	3	2	2		
	履修単位数	72	29	24	19	0	0
	英語Ⅶ	2				2	
	保健・体育Ⅳ・Ⅴ	3				2	1
主要科目	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	3				1	2
	語学演習	1					1
履修単位数		9	0	0	0	5	4

学科共通必修科目

区分	授業科目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
学科共通必修科目	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	2	1	1			
	地域コミュニティ学	1	1				
	総合工学Ⅰ～Ⅳ	4	1	1	1	1	
	創造基礎実習	2	2				
	工学実験・実習Ⅰ～Ⅳ	9		2	2	3	2
	応用数学Ⅰ・Ⅱ	5				3	2
	応用物理	2			2		
	生産工学	1					1
	卒業研究	12					12
	履修単位数	38	5	4	5	7	17

履修単位数合計

学 科	計	1年	2年	3年	4年	5年
創造工学科	167以上	34	32以上	34以上	35以上	36以上



1年生「総合工学Ⅰ」の授業風景

創造工学科（機械コース）

区分	授業科目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
主要基礎科目	情報処理Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	電気基礎Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	材料力学Ⅰ	2			2		
	材料学Ⅰ	2			2		
	工業力学	2			2		
	生産加工学	2			2		
	機械製図	2		2			
	履修単位数	14	0	4	10	0	0
主要科目	総合工学ゼミ	1				1	
	応用物理Ⅱ	2				2	
	情報処理Ⅲ	1				1	
	数値解析	1					1
	材料力学Ⅱ	2				2	
	材料学Ⅱ	1				1	
	機械力学Ⅰ・Ⅱ	2				1	1
	機械要素設計	2				2	
	デザイン工学	1				1	
	熱力学	2				2	
	熱力学演習	1					1
	水力学	2				2	
	水力学演習	1					1
	機構学	1				1	
	工業英語	1					1
	機械設計製図Ⅰ・Ⅱ	7				4	3
履修単位数		28	0	0	0	20	8

※4、5年生は、4年次で選択した分野の科目を併せて履修する。
(分野の教育課程表はP.22～に掲載)



4年生「工学実験・実習Ⅲ」エンジンの分解・組立ての実習

創造工学科（電気・電子コース）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
主要基礎科目	プログラミング演習	1		1			
	情報処理Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	電気磁気学Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅰ・Ⅱ	4		2	2		
	電気機器Ⅰ	1			1		
	電子工学	2			2		
	電気電子計測	2			2		
履 修 単 位 数			14	0	4	10	0
主要科目	総合工学ゼミ	1				1	
	応用物理Ⅱ	2				2	
	情報処理Ⅲ	1				1	
	電気磁気学Ⅱ	2				2	
	電気磁気学演習	1				1	
	電気回路Ⅲ	1				1	
	電気回路演習	1				1	
	電気電子材料	2				2	
	通信工学	2				2	
	情報通信	1				1	
	デジタル回路	2				2	
	電子回路	2				2	
	電子回路演習	1				1	
	電気電子製図	1				1	
	発変電工学	2					2
	制御工学	2					2
	計算機工学	2					2
	機械工学概論	1					1
	工業英語	1					1
履 修 単 位 数			28	0	0	0	20

※4、5年生は、4年次で選択した分野の科目を併せて履修する。
（分野の教育課程表はP.22～に掲載）

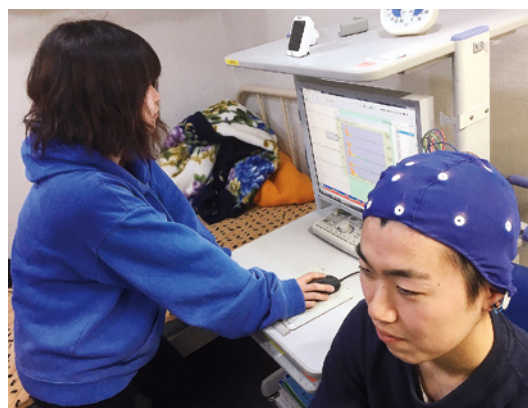


5年生「工学実験・実習Ⅳ」電子回路実験

創造工学科（情報コース）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
主要基礎科目	ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	コンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ	3		1	2		
	デジタル・アプリケーションⅠ・Ⅱ	2		1	1		
	電気・電子回路Ⅰ	2			2		
	組込みシステム概論	1			1		
	データサイエンス概論	1			1		
	情報数学Ⅰ	1			1		
履 修 単 位 数			14	0	4	10	0
主要科目	総合工学ゼミ	1				1	
	応用物理Ⅱ	2				2	
	信号処理	2				2	
	情報ネットワーク	1					1
	数値解析	2				2	
	論理回路	2				2	
	計測工学	1					1
	工業英語Ⅰ・Ⅱ	2				1	1
	情報理論	2				2	
	ソフトウェア構成論	2				2	
	情報セキュリティ	2				2	
	組込みシステム応用	2				2	
	IoTシステム	1					1
	データベース応用	1				1	
	ソフトウェア演習Ⅳ	2					2
	ソフトウェア開発	2					2
	電気・電子回路Ⅱ	1				1	
履 修 単 位 数			28	0	0	0	20

※4、5年生は、4年次で選択した分野の科目を併せて履修する。
（分野の教育課程表はP.22～に掲載）



4年生「総合工学Ⅳ」脳電位のサンプリングと成分解析

創造工学科（化学・生物コース）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
	分 析 化 学	2		2			
	無 機 化 学Ⅰ	2			2		
	有 機 化 学Ⅰ	2			2		
	物 理 化 学Ⅰ	2			2		
	基礎生物学Ⅰ・Ⅱ	2		1	1		
	化 学 工 学Ⅰ	1			1		
	物質化学実験Ⅰ・Ⅱ	3		1	2		
履 修 単 位 数			14	0	4	10	0
主 要 科 目	総 合 工 学 ゼ ミ	1				1	
	応 用 物 理Ⅱ	2				2	
	物 理 化 学Ⅱ	2				2	
	機 器 分 析	2				2	
	無 機 化 学Ⅱ	2				2	
	有 機 化 学Ⅱ	2				2	
	生 物 化 学	2				2	
	環境とエネルギー	1					1
	工業英語Ⅰ・Ⅱ	2				1	1
	機 械 工 学 概 論	1					1
	材 料 化 学	2				2	
	化 学 工 学Ⅱ	2				2	
	情 報 処 理 演 習	2					2
	計 算 機 実 習	1				1	
	計 測 制 御	2					2
	生 物 工 学 基 礎	1				1	
	外 国 語 雑 誌 会	1					1
履 修 単 位 数			28	0	0	0	20

※4、5年生は、4年次で選択した分野の科目を併せて履修する。
（分野の教育課程表はP.22～に掲載）



4年生 学生実験

創造工学科（デザイン工学分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	医療福祉機器工学	1		1	
	電 子 回 路	1	1		
	精 密 加 工 学	1		1	
履 修 単 位 数		3	1	2	
選 択 科 目※	アドバンステクノロジー	1		1	
	マイコン制御	1	1		
	メカトロニクス	1		1	
	制御工学Ⅰ・Ⅱ	4	2	2	
	材 料 化 学	1		1	
	数 理 科 学	1		1	
履 修 可 能 単 位 数		9	3	6	

※卒業に必要な修得単位数（合計167単位のうち、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を考慮し、各自にて選択する。

創造工学科（エレクトロニクス分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	デジタル信号処理	2	2		
	電 子 回 路 設 計	1		1	
履 修 単 位 数		3	2	1	
選 択 科 目	アドバンステクノロジー	1		1	
	ネットワークシステム	2		2	
	送 配 電 工 学	2		2	
	ネットワーク演習	1		1	
	パワーエレクトロニクス	1		1	
	ソフトウェア工学	1		1	
	電気法規及び電気施設管理	1		1	
	マイクロコンピュータ	2		2	
	電 気 応 用	2		2	
	電 気 機 器Ⅱ	2	2		
履 修 可 能 単 位 数		15	2	13	

創造工学科（ＩＴソフトウェア分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必修科目	計 算 機 構 成 論	2		2	
	ソフトウェア演習Ⅲ	1	1		
履 修 単 位 数		3	1	2	
選択科目	アドバンステクノロジー	1		1	
	ロ ボ ッ ト 工 学	1		1	
	シ ス テ ム 制 御	2		2	
	医療福祉機器工学	1		1	
	コンピュータビジョン	2		2	
	デ ジ タ ル 通 信	2		2	
	制 御 工 学	2	2		
	情 報 数 学 Ⅱ	2	2		
履 修 可 能 単 位 数		13	4	9	

創造工学科（環境バイオ分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必修科目	生 物 工 学 実 験	1	1		
	生 物 物 理 化 学	2		2	
履 修 単 位 数		3	1	2	
選択科目	アドバンステクノロジー	1		1	
	分 子 生 物 学	2		2	
	バイオテクノロジー	2		2	
	有 機 電 子 論	2		2	
	無 機 材 料 化 学	2		2	
	有 機 材 料 化 学	1		1	
	半 導 体 工 学	1	1	1	隔年開講
	薬 学 概 論	1			
	地 球 環 境 科 学	1		1	
履 修 可 能 単 位 数		13	1	12	

創造工学科（メカトロニクス分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必修科目	マイクロコンピュータ	2		2	
	メカトロニクス概論	1	1		
	シ ス テ ム 制 御	1		1	
履 修 単 位 数		4	1	3	
選択科目	アドバンステクノロジー	1		1	
	医療福祉機器工学	1		1	
	マ イ コ ン 制 御	1	1		
	電 子 回 路	1	1		
	メカトロニクス	1		1	
	制御工学Ⅰ・Ⅱ	4	2	2	
	材 料 化 学	1		1	
	ディジタル信号処理	2	2		
	高 電 圧 工 学	2	2		
	ネットワークシステム	2		2	
	送 配 電 工 学	2		2	
	ネットワーク演習	1		1	
	パワーエレクトロニクス	1		1	
	ソフトウェア工学	1		1	
	電気法規及び電気施設管理	1		1	
	電 気 機 器 設 計	1		1	
	電 子 回 路 設 計	1		1	
	電 気 機 器 Ⅱ	2	2		
	デ ジ タ ル 通 信	2		2	
	計 算 機 構 成 論	2		2	
	コンピュータビジョン	2		2	
	制 御 工 学	2	2		
	情 報 数 学 Ⅱ	2	2		
	ロ ボ ッ ト 工 学	1		1	
履 修 可 能 単 位 数		37	14	23	

創造工学科（資源エネルギー分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必修科目	地 球 環 境 科 学	1		1	
	パワーエレクトロニクス	1		1	
	エネルギー変換工学	1		1	
履 修 単 位 数		3	0	3	
選択科目	アドバンステクノロジー	1		1	
	電 子 回 路	1	1		
	マイコン制御	1	1		
	メカトロニクス	1		1	
	制御工学Ⅰ・Ⅱ	4	2	2	
	材 料 化 学	1		1	
	デジタル信号処理	2	2		
	高 電 圧 工 学	2	2		
	ネットワークシステム	2		2	
	送 配 電 工 学	2		2	
	ソフトウェア工学	1		1	
	電気法規及び電気施設管理	1		1	
	マイクロコンピュータ	2		2	
	電 気 応 用	2		2	
	電気機器設計	1		1	
	電子回路設計	1		1	
	電 気 機 器	2	2		
	生物工学実験	1	1		
	分子生物学	2		2	
	電 気 化 学	2		2	
	材料工学実験	1	1		
	バイオテクノロジー	2		2	
	有機電子論	2		2	
	生物物理化学	2		2	
	無機材料化学	2		2	
	有機材料化学	1		1	
	半 導 体 工 学	1	1	1	隔年開講
	薬 学 概 論	1			
履 修 可 能 単 位 数		44	13	31	

創造工学科（材料工学分野）

区分	授 業 科 目	単位数	学年別履修単位数		備 考
			4年	5年	
必修科目	材 料 化 学	1		1	
	電 気 化 学	2		2	
履 修 単 位 数		3	0	3	
選択科目	アドバンステクノロジー	1		1	
	電 子 回 路	1	1		
	マイコン制御	1	1		
	メカトロニクス	1		1	
	制御工学Ⅰ・Ⅱ	4	2	2	
	数 理 科 学	1		1	
	デジタル信号処理	2	2		
	高 電 圧 工 学	2	2		
	ネットワークシステム	2		2	
	送 配 電 工 学	2		2	
	ネットワーク演習	1		1	
	パワーエレクトロニクス	1		1	
	ソフトウェア工学	1		1	
	電気法規及び電気施設管理	1		1	
	マイクロコンピュータ	2		2	
	電 気 応 用	2		2	
	電気機器設計	1		1	
	電子回路設計	1		1	
	電 気 機 器	2	2		
	材料工学実験	1	1		
	バイオテクノロジー	2		2	
	有機電子論	2		2	
	生物物理化学	2		2	
	無機材料化学	2		2	
	有機材料化学	1		1	
	半 導 体 工 学	1	1	1	隔年開講
	薬 学 概 論	1			
履 修 可 能 単 位 数		41	12	29	

7. 専攻科

Department of Advanced Engineering Course



生産システム工学専攻 Production System Engineering

専攻科は、本科5年間の高専教育を基礎とし、さらに2年間、大学と同等レベルの専門的な技術者教育を行う教育課程として平成15年4月に設置され、平成27年4月に現在の1専攻3コース制となりました。

専攻科の教育課程では、一つのテーマについて2年間継続して取り組み、その成果を地域企業参加型の専攻科研究発表会や国内外の学術講演会、学術論文等で発表する専攻科研究を行います。また、他のコースの基礎的な専門知識や技術を同時に学び、広範な融合複合技術と柔軟な思考力を養います。さらに、チームワークによる課題解決型のエンジニアリングデザイン科目やインターンシップ、外部講師が先端技術を紹介する総合技術論等、特色のあるカリキュラム編成を行っています。

専攻科を修了することで、大学改革支援・学位授与機構から、大学工学部卒と同等の学士（工学）の学位が授与されます。したがって、専攻科を修了した学生は、大学院への進学も可能です。

専攻科では、右記に示した4項目の能力の修得を目標として掲げており、あらゆる分野の生産システムに関わる技術的課題に対応でき、幅広い知識を統合した構想力や対応力に優れ、かつ国際的に活躍できるコミュニケーションスキルを身につけた人材育成を目指します。

3つのコースでは、それぞれの専門分野の高度な知識を習得し、システムや新素材等の設計や開発技術能力を持った実践の開発型技術者を育成します。

1. 多様な価値観を理解できる協働性を持ち、世界的視野で物事を考えることができる能力
2. 社会や自然に関わる科学的知識、融合複合分野に関する基礎的知識および専門分野における基盤知識を活用できる能力
3. 科学技術分野における諸課題について、主体的に計画して取り組み、知識を統合・発展させて解決できる能力
4. 論理的な思考力、記述力、成果発表と議論の能力及び国際的コミュニケーション能力

機械・制御コース Course of Mechanical and Control Engineering

機械や材料、エネルギー、計測・制御等の分野についての教育研究を行い、各種機械、ロボット、制御機器等を資源や環境にも配慮して開発できる能力を養います。

学位申請における専攻区分は「機械工学」で、設計系、制御系、材料系の科目を中心に履修します。

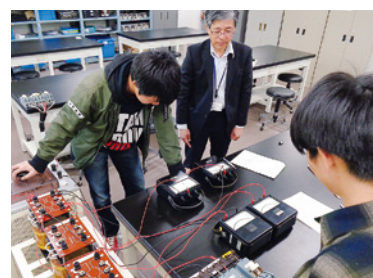


専攻科実験 機械分野

電気電子・情報コース Course of Electric, Electronics and Information Engineering

社会基盤の構築に重要なパワーエレクトロニクス、エネルギー変換工学、半導体工学、通信工学、情報ネットワーク、プログラミング言語、アルゴリズムなどの専門知識を系統的かつ有機的に修得します。さらに、ICT、IoTを活用した社会システムや、資源や環境に配慮した新規電子材料を開発できる能力を養います。

学位申請における専攻区分は「電気電子工学」で、システム系、通信系、情報系の科目を中心に履修します。



専攻科実験 電気電子分野

応用化学コース Course of Applied Chemistry

化学や材料を中心にエネルギー、環境、生物に至るまで、応用化学コースの教育研究の分野は多岐にわたります。新素材や機能性材料、医薬品や農薬等の化学物質などを、資源や環境に配慮して開発できる能力を養います。

学士申請における専攻区分は「応用化学」で、化学系、材料系、生物系の科目を中心に履修します。



創造工学実習

教育課程 Curriculum

一般科目・共通専門科目（各コース共通）

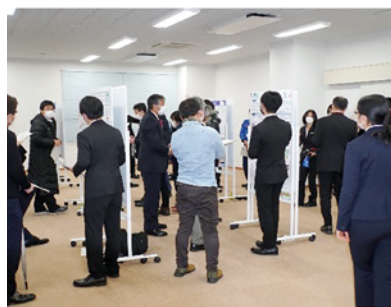
区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年・学期別割当				備 考
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
一 般 科 目	必修科目	総 合 実 践 英 語 I	2	2				
		総 合 実 践 英 語 II	2		2			
		小 計	4	2	2			
	選択科目	地 域 政 策 論	2				2	1科目以上 修得すること
		環 境 地 理 学 特 論	2				2	
		日 本 学 特 論	2		2			
		小 計	6		2		4	
	開 設 単 位 合 計			10	2	4		4
専 門 科 目	必修科目	総 合 技 術 論	2	2				
		実践的デザイン工学実習	2	2				
		応 用 代 数	2	2				
		物 理 学 特 論	2		2			
		創 造 工 学 実 習	2	1	1			
		技 術 者 倫 理	2		2			
		専 攻 科 研 究 I	8	4	4			
		専 攻 科 研 究 II	8			4	4	
		専 攻 科 実 験	2	2				
	小 計	30	13	9	4	4		
	必修 選択 科目	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	2				どちらかを必ず 修得すること
		長期インターンシップ	3～4	3～4				
		応 用 解 析 特 論	2		2			3科目以上 修得すること
		固 体 物 理 学	2		2			
		デ ー タ 解 析	2	2				
		経 営 工 学	2			2		
		数 値 計 算	2	2				
安 全 工 学		2	2					
小 計			14以上	14以上				
開 設 単 位 合 計			44以上	21以上	13以上	6以上	4以上	



実践的デザイン工学実習（フィールドワーク集合写真）



実践的デザイン工学実習（漂着ゴミ回収作業準備）



一地域企業参加型一 専攻科 1 年生研究発表会

機械・制御コース（MCコース）

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年・学期別割当				備 考
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
必修科目	実 践 電 気 電 子 工 学	2			2		
	材 料 科 学	2			2		
	材 料 力 学 特 論	2	2				
	流 体 機 械	2		2			
	小 計	8	2	2	4		
選 択 科 目	材 料 設 計 学	2			2		5科目以上 修得すること
	塑 性 加 工 学	2		2			
	応 用 機 構 学	2		2			
	セ ン サ 工 学	2				2	
	制 御 工 学 特 論	2				2	
	設 計 工 学	2		2			
	シ ス テ ム 計 画 学	2				2	
	小 計	14	0	6	2	6	
開 設 単 位 合 計		22	2	8	6	6	

電気電子・情報コース（EIコース）

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年・学期別割当				備 考
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
必修科目	基 礎 工 業 力 学	2			2		
	材 料 科 学	2			2		
	集 積 回 路 設 計	2	2				
	デ ー タ サ イ エ ン ス	2		2			
	小 計	8	2	2	4		
選 択 科 目	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 工 学	2	2				5科目以上 修得すること
	電 磁 気 応 用 工 学	2			2		
	伝 送 シ ス テ ム 工 学	2			2		
	信 号 処 理 特 論	2	2				
	セ ン サ 工 学	2				2	
	計 算 機 シ ス テ ム	2				2	
	応用コンピュータグラフィクス	2		2			
	シ ス テ ム 計 画 学	2				2	
	小 計	16	4	2	4	6	
開 設 単 位 合 計		24	6	4	8	6	

応用化学コース（ACコース）

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年・学期別割当				備 考
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
必修科目	実 践 電 気 電 子 工 学	2			2		
	基 礎 工 業 力 学	2			2		
	工 業 分 析 化 学	2	2				
	高 分 子 材 料 化 学	2		2			
	小 計	8	2	2	4		
選 択 科 目	構 造 有 機 化 学	2	2				5科目以上 修得すること
	生 物 資 源 利 用 化 学	2	2				
	反 応 速 度 論	2		2			
	応 用 電 気 化 学	2		2			
	生 物 機 能 工 学	2				2	
	環 境 化 学	2				2	
	ゲ ノ ム 工 学	2			2		
	小 計	14	4	4	2	4	
開 設 単 位 合 計		22	6	6	6	4	

8. 総合メディアセンター

Media Center

総合メディアセンターは、図書メディア部門と情報メディア部門の2つの部門で組織されており、本校の教職員及び学生の教育、研究並びに教養の向上に資することを目的としています。

センター内には、図書館や情報演習室以外にも、学生会や文化部の活動拠点や、学生が自由にパソコンを持ち込んで利用が可能なデジタルサロンなどが設置されているほか、ノートパソコンの貸し出しや、コピーサービスなども行っており、学生の文化活動拠点としての役割も果たしています。

図書メディア部門 Library Media Division

総合メディアセンター（図書メディア部門）では、図書の閲覧・帯出（貸し出し）ができます。また、一般開放も行っています。

開館時間 平 日 8時30分～20時

土曜日 9時～17時

※学生の長期休業期間中は、平日8時30分～17時のみ開館

閉 館 日 日曜日、祝祭日等

長期休業期間中の土曜日、学校行事日



蔵 書 数 Collection of Books (vols.)

令和5年5月1日現在

区 分 分 類	図 書 (冊数)			購入雑誌 (種類数)		
	和 書	洋 書	合 計	和 文	欧 文	合 計
総 記	3,170	167	3,337	0	0	0
哲 学	2,747	148	2,895	0	0	0
歴 史	4,517	195	4,712	0	0	0
社会科学	5,159	196	5,355	1	0	1
自然科学	11,548	2,699	14,247	5	0	5
工 学	13,269	629	13,898	10	0	10
産 業	627	3	630	0	0	0
芸 術	2,354	29	2,383	10	0	10
語 学	2,724	528	3,252	1	0	1
文 学	9,460	1,141	10,601	0	0	0
合 計	55,575	5,735	61,310	27	0	27

利 用 状 況 Using of Library

令和4年度

開 館 日 数	261日
学 生 貸 出 人 数	1,604人
学 生 貸 出 冊 数	2,743冊
学 生 1 人 平 均	2冊/人
入 館 者 数	19,078人
入 館 者 平 均	73人/日

情報メディア部門 Information Media Division

総合メディアセンター（情報メディア部門）は、本校の共通施設として運用されており、情報演習室は、主に情報リテラシー教育やプログラミングなどの授業（実習）で使用しています。

また、昼休みや放課後等の授業で使用していない時間は、学生は自由にパソコンを使用することができます。

開館時間 平 日 8時30分～17時

閉 館 日 土日祝祭日、長期休業期間、
学校行事日



9. 教育研究技術支援センター

Technical Support Center

教育研究技術支援センターは、教育研究支援体制の強化を目的として平成21年1月1日に発足した組織です。センター長及び技術職員で構成されており、教育研究のための技術開発や試作、分析など技術業務全般に関すること、実験・実習施設における機材等の保安全管理、ICT活用教育や教育用及び業務用情報システム運用管理支援、加えて地域に根差した“ものづくり講座”の開催など、高等教育機関としての高専において教育研究の一翼を担うべく広範囲な支援活動を行っています。

技術職員は、機械・電気・電子、情報、化学・生物系それぞれの分野で実践的かつ高度な知識を有しています。さらに、昨今の技術発展をキャッチアップするため、学会、技術発表会、各種研修会、資格取得などを通じた自己研鑽や外部資金獲得などに努めています。



10. 保健センター

Health Center

保健センターは、健診や調査の実施、各種相談の受付、様々な支援の検討・立案、また、外部専門機関と連携等を通して、学生及び教職員の心身の健康維持・増進を図り、修学や就業の健全性を保持することを目的としています。

保健室 Health Care Room

学生・教職員の健康管理を担当。学校保健計画の立案や健康診断の実施、不測の疾病及び傷害への対応を行います。



相談室 Counselling Room

学生・教職員に対する相談活動や支援活動、メンタルヘルスケアに関する啓発活動を行います。スクールカウンセラー等によるカウンセリングと教育相談を行っています。

[相談活動の内容]

- 学生の学校生活に関する相談
- 学生の家庭環境に関する相談
- 教職員の就業環境に関する相談
- 学生及び教職員のハラスメントに関する相談



■時 間／平日8時30分～17時

■担 当／スクールカウンセラー（公認心理師）毎週水曜日 14時～17時（オンライン）
 ソーシャルワーカー（社会福祉士）毎週火曜日・木曜日 14時～17時
 スクールカウンセラー（臨床心理士）毎週木曜日 14時～17時（オンライン）
 精神科医 毎月1回 15時～17時（対面・要予約）
 相談員（特別支援教育士）毎週月曜日 14時～17時（対面）
 相談員（教育相談員）毎週金曜日 15時～17時（対面）
 相談員（学内保健センター員）随時

11. 国際交流

International Exchanges

国際交流支援室 International Affairs Office

国際交流支援室は、海外教育機関との協定や交流、日本人学生の留学支援や海外からの留学生受入などを主な役割として、2009年9月に設置されました。学内外での異文化コミュニケーション環境を学生に幅広く提供し、学生の国際交流を推進しています。

海外教育機関との学術交流協定 Academic Agreements

(2023年5月1日現在)

国	協 定 先 機 関 名
フ ラ ン ス	リールA技術短期大学 アルトワ大学
フィンランド	トゥルク応用科学大学 ヘルシンキメトロポリア応用科学大学
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校 泰日工業大学 ラジャマンガラ工科大学ランナー校
シンガポール	5ポリテクニク
ベトナム	電力大学 ハノイ産業大学
インドネシア	ガジャマダ大学
台湾	国立聯合大学 長庚大学
モンゴル	モンゴル高専連盟
オーストラリア	ニューカッスル大学
ニュージーランド	マヌカウ工科大学
アメリカ	レッドロック・コミュニティカレッジ
メキシコ	グアナフアト大学



現地学生と一緒に(フランス留学)



協定校の学生と(台湾留学)



留学報告会・説明会



留学先での一コマ(ニュージーランド留学)

短期留学生の派遣 Sending Students 2019-2022

本校には多彩な留学プログラムがあり、長期休暇を利用し、例年多くの学生が海外留学を経験しています。主に英語集中講義を受講する短期研修だけでなく、海外協定校の研究室で研究や実習を行う中長期留学など、全学年を対象とした多彩なプログラムがあります。また当室では、学生への留学支援として様々な奨学金獲得に積極的に取り組んでおり、本校独自の助成金に加え、日本学生支援機構などの奨学金を留学費用の一部として充当できます。

2020年度より一時休止していた学生の海外派遣は、昨年度より徐々に再開しています。今後も海外へ羽ばたく学生を支援していきます。

《国別 派遣実績》

国・地域	2019年度	2020/2021年度	2022年度
シンガポール	1	新型コロナウイルス 感染防止のため中止	0
ニュージーランド	7		0
台湾	0		1
タイ・ベトナム	2		0
フィンランド	1		0
フランス	0		1
南米	3		0

《学年別 派遣実績》

学 年	2019年度	2020/2021年度	2022年度
1 年	1	新型コロナウイルス 感染防止のため中止	0
2 年	1		0
3 年	4		0
4 年	3		0
5 年	3		1
専攻科生	2		1

短期留学生の受入 Accepting Students 2019-2022

本校では、海外協定校から短期留学生の受入れを行っています。滞在期間中は配属先の各研究室で研究活動を行うほか、日本文化体験や本校学生との交流も行い、双方の学生にとって充実した異文化交流の機会となっています。短期留学生の受入も再開し、キャンパス内での国際交流の機会も増えつつあります。

《国別 受入実績》

国・地域	2019年度	2020/2021年度	2022年度
シンガポール	20	新型コロナウイルス 感染防止のため中止	0
台湾	2		1
フランス	3		0
フィンランド	2		1
タイ	0		2
南米	10		0

オンライン交流 Online Exchanges

コロナ禍で留学プログラムが実施できない間も、学生の学ぶ意欲と国際交流を途絶えさせないため、継続して生きた英語を学ぶ機会を提供してきました。海外協定校とのオンライン交流では、両校学生・教職員による研究発表や文化紹介を行い、参加者同士で活発な議論や情報交換が行われています。本校学生にとって世界へ視野を広げる有益な時間となっています。

【交流実績】

- *シンガポール協定校とのオンライン交流
- *タイ協定校とのオンラインシンポジウム
- *メキシコ協定校とのバーチャル異文化交流

英会話レッスン English Lessons

学生の国際コミュニケーション力向上を図る取組みとして、ビデオ通話により外国人講師と一対一で会話できるオンライン英会話を実施しています。レッスンを通じ、英語で意思疎通を図る楽しさを体感しながら、学習意欲や実践的英語力の向上を目指します。留学前の語学力アップを目指すだけでなく、TOEIC等の資格試験対策や英語での研究発表練習としても活用できます。英語で主体的に発言することで、低学年のうちから国際力の基礎を養うことができます。

留学プログラム、活動報告などの詳しい情報は
国際交流支援室ホームページに掲載しています。



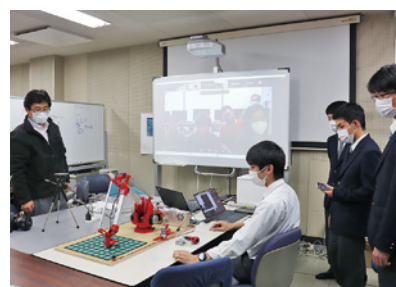
国際交流支援室
ホームページは
こちらから！



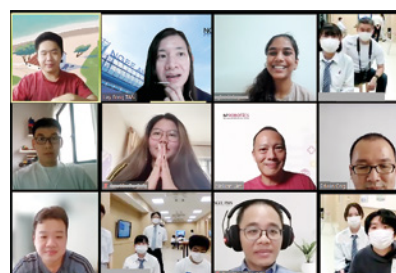
受入留学生の書道体験



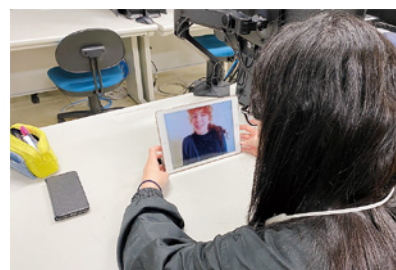
シンガポール留学生との交流



シンガポール協定校とのオンライン交流



オンライン交流中の一コマ



オンライン英会話受講中



留学先では異国の食文化も体験

12. 地域連携センター

Regional Partnership Center

地域連携センターの役割 Mission of Regional Partnership Center

当センターは、地域企業等との技術・研究交流により地域社会の発展に寄与するとともに、地域企業等と連携して学生のキャリア教育を推進することにより、本校の教育研究の充実発展に資する役割を担っています。

地域連携センターの主な活動 Main Activities of Regional Partnership Center

当センターには、地域連携部門、人材育成部門と^{ケア・アーク}K-ARC部門の3つの部門を置いています。

地域連携部門では、地域企業等との共同・受託研究の促進支援、地域企業等からの技術相談及び公開講座等の啓発活動のほか地域イベント等への参加・企画運営を行っています。

人材育成部門では、“企業と学校が協働し、現場経験と知識習得を交互に行い、新技術開発が行える技術者を養成する”ことを目指した、^{ユース・オブ}CO-OP教育の推進を主な活動としています。

K-ARC部門では、高専の研究拠点を目指すとともに、教員の研究力向上、研究費の自立化、企業、国立開発研究法人や大学との教育研究活動の推進を主な活動としています。



地域連携センター棟

学術交流協定締結状況（最近10年間）

締結年月	協定締結機関
H23.4.1	東北大学サイバーサイエンスセンター
H24.1.31	北陸先端科学技術大学院大学
H26.7.28	東北工業大学
H26.12.9	北陸先端科学技術大学院大学
H27.2.5	東北公益文科大学
H27.3.1	長岡技科大、豊橋技科大、九州工業大、北陸先端科学技術大学院大学
H28.1.21	慶應義塾大学（総合政策学部・環境情報学部）
H28.12.6	学校法人岩崎学園 情報セキュリティ大学院大学
H30.9.20	学校法人天眞林昌学園 酒田南高等学校

その他協定締結機関一覧

東北大学大学院医工学研究科、東北大学大学院（工学研究科、情報学研究科、環境科学研究科）、山形大学農学部、山形大学工学部・山形大学院理工学研究科

産学官連携協力推進に係る協定締結状況（最近10年間）

締結年月	協定締結機関
H27.7.17	鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町
H29.9.29	株式会社きらやか銀行 きらやかコンサルティング&パートナーズ株式会社
H30.12.14	株式会社山形銀行
H31.3.20	全国農業協同組合連合会山形県本部（JA全農山形）
R1.7.8	東北エプソン株式会社
R3.3.9	山形県最上総合支庁
R3.3.30	メディア総研株式会社

その他協定締結機関一覧

株式会社荘内銀行、株式会社山形銀行、商工組合中央金庫山形支店、商工組合中央金庫酒田支店
鶴岡信用金庫、山形県商工観光部

地域連携部門の活動 Activities of Regional Partnership Division

地域連携部門の活動は、研究、学術情報交換、技術教育とコーディネート活動の4つに大別できます。

研究としては、自治体、企業等との共同研究、受託研究、研究協力を行っています。また、技術相談、調査にも協力しています。

学術情報交換としては、民間企業、大学、本校教員等によるフォーラム、セミナー、講演会を主催、共催しています。個々の教員がそれぞれ専門分野の学術交換、文献調査等にも協力しています。

技術教育としては、公開講座やその他の講習会等で、教職員と学生が専門分野や基礎専門分野において協力を行います。

人材育成部門の活動 Activities of Human Resource Development Division

人材育成部門は、学生たちに現場を経験させ、新たな技術開発（イノベーション）のできる技術者を養成するための就業経験学習に取り組む、CO-OP教育の推進を主な活動としています。

本校のCO-OP教育は、5年間一貫教育や実験・実習を重視した専門教育を行う高専の独自性を生かし、3年次から長期休暇を利用し、専門関連企業において就業経験学習を行うものです。

学生が就業経験学習を重ねることによって、仕事をステップアップしながらコミュニケーション能力・基礎技術・問題解決能力などの就業能力を向上させていくことが目的です。

K-ARC部門の活動 Activities of K-ARC Division

「鶴岡市先端研究産業支援センター（鶴岡メタボロームキャンパスサイエンスパーク）」内にK-ARC（Kosen-Applied science Research Center）を設置し、高専機構研究推進モデル校として、全国高専、ブロック高専の研究拠点構築のパイロットプロジェクトを平成27年7月より本格始動しました。

K-ARC部門では教員の研究力向上、外部資金獲得の拡大、企業との教育研究活動推進を行っています。また、全国高専の研究ネットワーク構築、国内トップレベルの研究機関と連携し実用化への補完研究を遂行し、変化する高専においてプレゼンスを高める活動も行っています。

全国高専連携ネットワーク (K-Drive マテリアル分野)



13. 教員の研究活動

Research Activities

在外研究員 Overseas Research Personnel

(最近3年間)

年度	氏 名	所 属	研究期間	受入機関	研究題目
R 2	(実績なし)				
R 3	(実績なし)				
R 4	久 保 響 子	創造工学科 (化学・生物コース)	R4.4.21 ～ R5.3.31	(ドイツ) マックス・プランク 海洋微生物学研究所	海洋性好気性光合成細菌の多様性、 豊富さ、及びその生態の解明

受 賞 等 Awards and Prizes

(最近3年間)

年度	氏 名	所 属	賞の名称 (一部略称)
R 2	(実績なし)		
R 3	(実績なし)		
R 4	森 永 隆 志	創造工学科 (化学・生物コース)	令和4年度国立高等専門学校教員顕彰優秀賞

外部資金の受入状況 Acceptance of External Funds

科学研究費助成事業

(最近3年間)

研 究 種 目 名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基 盤 研 究 (B)	2	2	3
基 盤 研 究 (C)	8	13	12
若 手 研 究 (A)			
若 手 研 究 (B)			
若 手 研 究	4	4	3
挑 戦 的 萌 芽 研 究	0	0	0
奨 励 研 究	1	1	1

外部資金

(最近3年間)

研 究 種 目 名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
共 同 研 究	22	22	25
受 託 研 究	11	12	11
寄 附 金	23	21	18

14. 学 生 Students

学生の定員及び現員 Quota and Actual Number

本 科

令和5年5月1日現在

区 分	創 造 工 学 科		コ ー ス 別 内 訳				
	定 員	現 員	機 械 コ ー ス	電 気・電 子 コ ー ス	情 報 コ ー ス	化 学・生 物 コ ー ス	計
第1学年	160	162 (34)					162 (34)
第2学年	160	158 (38)	37 (5)	37 (3)	42 (17)	42 (13)	158 (38)
第3学年	160	158 (28)	36 (2)	40 (4)	41 (8)	41 (14)	158 (28)
第4学年	160	152 (28)	31 (5)	36 (2)	40 (10)	45 (11)	152 (28)
第5学年	160	158 (29)	37 (5)	46 (1)	43 (8)	32 (15)	158 (29)
計	800	788 (157)	141 (17)	159 (10)	166 (43)	160 (53)	788 (157)

専攻科

区 分	生産システム工学専攻		コ ー ス 別 内 訳			
	定 員	現 員	機 械・制 御 コ ー ス	電 気電 子・情 報 コ ー ス	応 用 化 学 コ ー ス	計
第1学年	16	19 (4)	3 (0)	12 (1)	4 (3)	19 (4)
第2学年	16	17 (2)	2 (0)	9 (2)	6 (0)	17 (2)
計	32	36 (6)	5 (0)	21 (3)	10 (3)	36 (6)

志願者数、受験者数及び入学者数 Applicants, Candidates and Admissions

区分	年度 学科	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	創造工学科	創造工学科	創造工学科	創造工学科	創造工学科	
定員	160	160	160	160	160	
志願者	224（36）	222（43）	162（29）	163（41）	182（35）	
受験者	224（36）	222（43）	162（29）	163（41）	178（35）	
入学者	160（31）	160（31）	160（29）	159（38）	160（34）	
倍率	1.40	1.39	1.01	1.02	1.14	

() 内は女子で内数を示す。

学 生

学生の定員及び現員・志願者数、受験者数及び入学者数

出身学校別学生数

Junior and Senior High School Classification of Students

【内 陸】

市町村名	学校名	学 生 数					
		1	2	3	4	5	計
山 形 市	第 一	1		1	1		3
	第 二		2	1	2	1	6
	第 三	1		2		2	5
	第 四				1	1	2
	第 五	3			1		4
	第 六					4	4
	第 七	1	2			1	4
	第 八						0
	第 九						0
	第 十	2	3	1		1	7
	金 井				1		1
	高 楯	1					1
	山 寺						0
	蔵王第一	2	1			1	4
	蔵王第二						0
	山大附属	3	3	1	2	1	10
上 山 市	南		1				1
	北	1		2			3
	宮 川					2	2
天 童 市	第 一			1	1	3	5
	第 二			2			2
	第 三		1		2		3
	第 四	1			1		2
東村山郡	山辺町	山 辺		1	1		2
	中山町	中 山		1	1		3
寒 河 江 市	陵 東	2	1	1	5	1	10
	陵 南	1			1		2
	陵 西	1			1		2
西村山郡	大江町	大 江			2		3
	藤田の丘						0
	河北町	河 北	1	3		1	5
	西川町	西 川			1		1
村 山 市	朝日町	朝 日			1		1
	楯 岡		1	3		2	6
東 根 市	葉 山		1		1		2
	第 一			1	1		2
	第 二				1		1
	第 三		1				1
	大 富		1				1
	神 町		1				1
尾 花 沢 市	東桜学館	1					1
	福 原						0
	尾 花 沢	1	3		2	1	7
	(玉 野)				2		2
山北郡村	大石田町	大 石 田				1	1
	新 庄 市	新 庄	1	1			2
新 庄 市	明 倫		1		2	1	4
	日 新	3	3			1	7
	八 向				1	1	2
	萩野学園		1		3		4
	最上町	最 上	1	2	1		5
最上郡	舟形町	舟 形				1	1
	真室川町	真 室 川				1	1
	金山町	金 山					0

市町村名	学校名	学 生 数					
		1	2	3	4	5	計
最上郡	鮭川村	鮭 川		1		1	2
	戸沢村	戸 沢			2		2
	大蔵村	大 蔵	2				2
米 沢 市	第 一	1					1
	第 二	2	1	1			4
	(南 原)						0
	第 三			1	1	1	3
	第 四		1	2		2	5
	第 五			1			1
	第 六						0
	第 七					2	2
	沖 郷					1	1
	赤 湯		1	1			2
南 陽 市	宮 内	1					1
	高島町	高 島	2	1	2		5
東置賜郡	川西町	川 西					0
長 井 市	南	2		1		2	5
	北	4	1				5
西置賜郡	小国町	小 国			1	1	2
	白鷹町	白 鷹				1	1
	飯豊町	飯 豊					0
内 陸 地 区 小 計		43	41	32	39	40	195

【庄 内】

市町村名	学校名	学 生 数					
		1	2	3	4	5	計
鶴 岡 市	鶴岡第一	5	12	15	16	11	59
	鶴岡第二	4	5	11	3	6	29
	鶴岡第三	12	13	11	13	14	63
	鶴岡第四	9	7	7	7	6	36
	鶴岡第五	7	6	3	5	4	25
	豊 浦		1		3	3	7
	藤 島	7	3	5	3	6	24
	羽 黒	2	3	3	3	5	16
	櫛 引	6	3	5	6	5	25
	朝 日	4	2	1	2	2	11
	温 海	6	2	4	2	3	17
東田川郡	立 川	1	3	2		4	10
	余 目	8	6	6	6	3	29
三川町	三 川	5	7	3	5	1	21
	第 一	4	7	3	4	3	21
酒 田 市	第 二	3	1	6	2	1	13
	第 三	8	4	7	6	4	29
	第 四	8	4	15	8	12	47
	第 六	2	4	7	6	5	24
	鳥海八幡	3	3	1	3	6	16
	東 部	4	2	4	2	3	15
	(飛 島)						0
	遊佐町	遊 佐	2	4	2	4	17
飽 郡	編入学生						0
庄 内 地 区 小 計		110	102	121	109	112	554

【県 外】

令和5年5月1日現在

市町村名	学校名	学 生 数					
		1	2	3	4	5	計
宮城県	広 瀬					1	1
	富 沢	2					2
	宮教大附属		1				1
	南 中 山				1		1
	高 砂					1	1
	寺 岡					1	1
	郡 山						0
	岩沼市	岩 沼 西				1	1
	大崎市	古 川 東		1			1
	塩竈市	第 一		1			1
	富谷市	富 谷		1			1
	日吉台	1					1
	加藤郡	小 野 田		1			1
	大崎市	三 本 木	1				1
	利府町	利 府	1				1
秋田県	秋田市	桜		1			1
	由利本荘市	東 由 利					0
福島県	いわき市	小名浜第二			1		1
	喜多方市	塩 川		1			1
新潟県	新潟市	新潟大附属					1
	村上市	山 北		1			1
栃木県	高根沢町	阿 久 津		1			1
群馬県	前橋市	富 士 見		1			1
埼玉県	横浜市	大 正	1				1
埼玉県	加須市	加須平成		1			1
千葉県	千葉市	小 中 台		1			1
	誉 田	1					1
石川県	金沢市	紫 錦 台	1				1
愛知県	豊橋市	本 郷		1			1
三重県	四日市	西 朝 明		1			1
和歌山県	和歌山市	西 和		1			1
沖縄県	琉球大附属		1				1
帰 国 子 女			1				1
県 外 計		9	15	3	2	4	33

【外国人留学生】

国 籍	学 生 数					
	1	2	3	4	5	計
モ ン ゴ ル			1		2	3
イ ン ド ネ シ ア				1		1
メ キ シ コ			1			1
カ ン ボ ジ ア				1		1
外 国 人 留 学 生 計	0	0	2	2	2	6

合 計	学 生 数					
	1	2	3	4	5	計
	162	158	158	152	158	788

【専攻科生】

出 身 学 校 名	1	2	計
鶴 岡 高 専	19	17	36
合 計	19	17	36

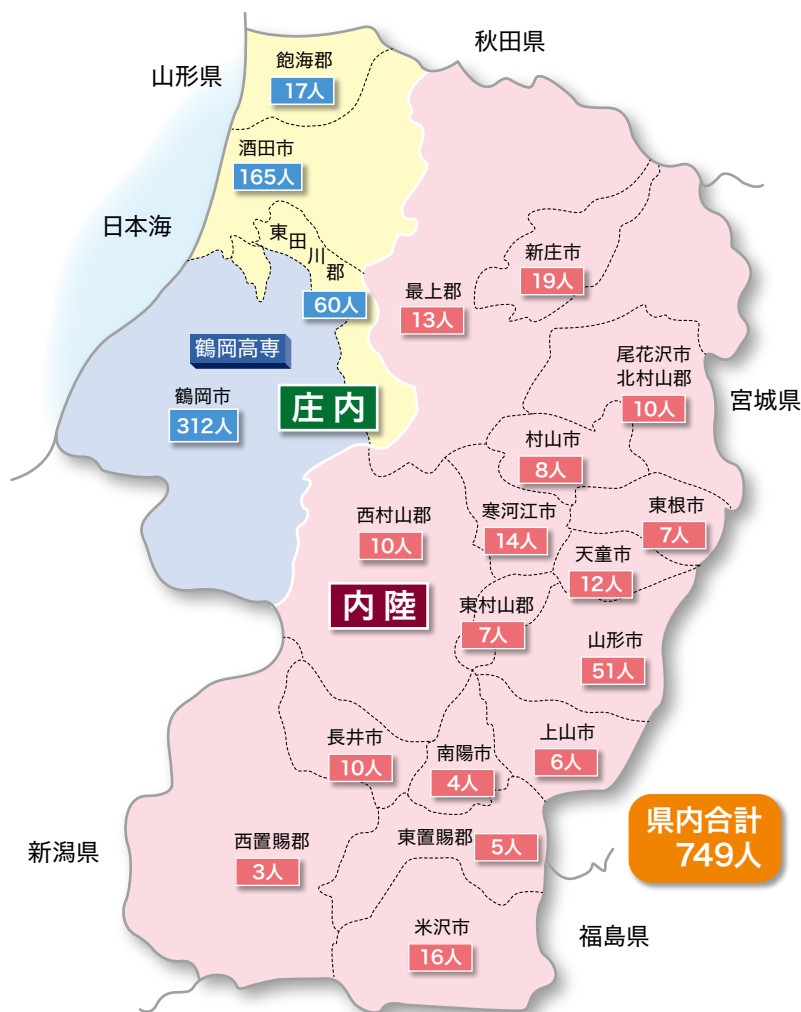
学 生

出身学校別学生数

出身地別学生数 Hometown Classification of Students

県内 Students from Yamagata Prefecture

令和5年5月1日現在



県外 Students from outside Yamagata prefecture

宮 城 県	15人
秋 田 県	1人
福 島 県	3人
新 潟 県	2人
栃 木 県	1人
群 馬 県	1人
埼 玉 県	1人
千 葉 県	2人
神 奈 川 県	1人
石 川 県	1人
愛 知 県	1人
三 重 県	1人
和 歌 山 県	1人
沖 縄 県	1人
帰 国 子 女	1人
計	33人

留学生 Overseas Students

モ ン ゴ ル	3人
インドネシア	1人
メ キ シ コ	1人
カンボジア	1人
計	6人

※ 上記の学生数は、本科生のみである。

学校納付金 Tuition/School fees

授業料等

種 類	金 額
入 学 料	84,600円
授 業 料 前 期 分	117,300円
授 業 料 後 期 分	117,300円

その他

種 類	金 額
学 生 会 入 会 金	500円
学 生 会 費	6,000円
後 援 会 入 会 金	10,000円
後 援 会 費(本 科)	28,000円
後援会費(専攻科)	18,000円

※学寮にかかる経費はP.42に掲載

奨学生数 Scholarship Students

令和4年度実績

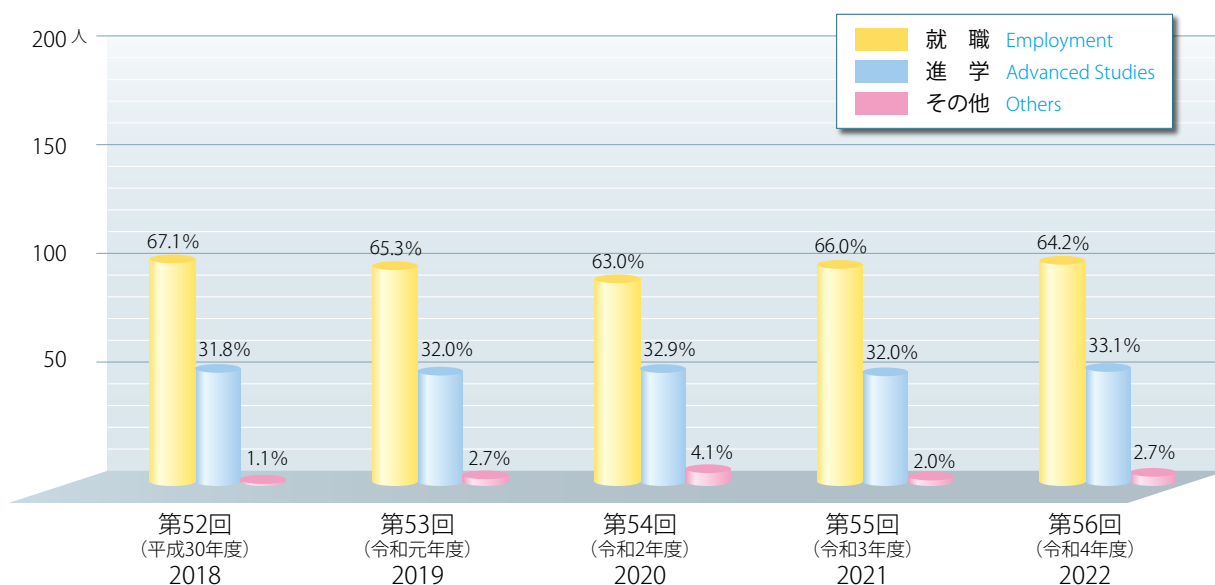
区 分 学 年	日本学生支援機構			オリエンタルモーター奨学財団(給付)	真知社育英会	その他
	貸 与 (第一種)	貸 与 (第二種)	給 付 (修学支援新制度)			
1 年	1	—	—	0	0	0
2 年	2	—	—	1	0	0
3 年	5	—	—	4	1	2
4 年	6	2	23	2	0	3
5 年	8	1	13	0	0	3
専攻科	2	0	4	—	0	0
合 計	24	3	40	7	1	8

15. 卒業後の進路

Careers after Graduation

年度別就職・進学状況

Employment and Advanced Studies



就職 (第54回～第56回卒業生)

Employment (2020～2022)

区 分		機 械 コ ー ス *			電 気 ・ 電 子 コ ー ス *			情 報 コ ー ス *			化学・生物コース*			計			専 攻 科		
		第54回 (令和2年度)	第55回 (令和3年度)	第56回 (令和4年度)	第54回 (令和2年度)	第55回 (令和3年度)	第56回 (令和4年度)	第54回 (令和2年度)	第55回 (令和3年度)	第56回 (令和4年度)	第54回 (令和2年度)	第55回 (令和3年度)	第56回 (令和4年度)	第54回 (令和2年度)	第55回 (令和3年度)	第56回 (令和4年度)	第17回 (令和2年度)	第18回 (令和3年度)	第19回 (令和4年度)
卒 業 者 数		36	38	36	34	32	39	38	39	37	38	41	36	146	150	148	16	24	21
就 職 者 数		24	31	28	24	20	21	19	21	22	25	27	24	92	99	95	12	14	14
求 人 数		380	354	287	390	371	310	303	292	243	197	184	170	1270	1201	1010	827	682	659
求 人 倍 率		15.8	11.4	9.9	16.3	18.6	14.8	15.1	13.9	11.4	7.9	6.8	6.9	13.7	12.1	10.5	68.9	56.6	52.2
就 模 別	500人以上の事業所	15	20	22	19	13	14	10	13	16	17	19	20	61	65	72	10	10	9
	499～100人の事業所	9	8	5	3	6	5	9	6	5	5	5	2	26	25	17	1	4	5
	100人未満の事業所	0	3	1	2	1	2	0	2	1	3	2	2	5	8	6	1	0	0
	官 公 庁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
計		24	31	28	24	20	21	19	21	22	25	27	24	92	99	95	12	14	14
職 産 業 別	鉱 業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	建 設 業	0	7	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	9	3	1	1	0
	食 料 品	1	1	1	1	0	0	0	1	0	4	1	2	6	3	3	0	1	0
	織 維 工 業	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	3	2	4	3	0	0	1
	出 版 ・ 印 刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	化 学 工 業	1	0	2	0	4	2	1	1	0	12	14	15	14	19	19	1	3	2
	石 油 製 品	5	1	0	0	2	1	0	0	0	5	0	0	10	3	1	0	1	0
	鉄 鋼 業	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	非 鉄 金 属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 属 製 品	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	一 般 機 械	3	2	3	3	2	2	1	0	0	0	0	1	7	4	6	0	0	1
	電 気 機 械	1	3	5	5	2	5	4	2	2	0	0	0	10	7	12	4	2	2
	輸 送 用 機 械	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3	1	0	0	0
	精 密 機 械	3	1	5	6	3	1	1	4	2	0	1	1	10	9	9	2	3	2
そ の 他	3	1	2	1	1	0	3	0	0	1	3	0	8	5	2	1	1	3	
卸 売 ・ 小 売 業		0	3	2	1	0	0	1	0	1	0	0	1	2	3	4	0	0	0
金 融 ・ 保 険 業		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運 輸 通 信 業		1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	1
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業		0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	2	0	2	2	2	0	0	0
サ ー ビ ス 業		4	10	2	2	3	8	8	11	15	2	1	1	16	25	26	3	1	2
官 公 庁		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
計		24	31	28	24	20	21	19	21	22	25	27	24	92	99	95	12	14	14

※一部、従業員数を非公開としている企業があり、就職者数、規模別、産業別の計が一致しない箇所がある。

建設業
三信
J-POWERハイテック
東北電機鉄工
日本オーチス・エレベータ
林建設工業
東日本高速道路
日立ビルシステム
マイスターエンジニアリング
メカニック
メタウォーター
裕幸計装
レイズネクスト

食料品
月山酒造
キリンビール
サントリースピリッツ
サントリービール
ドリームズファーム
平田牧場
まるい食品
明治
森永乳業
雪印メグミルク

繊維工業
旭化成
クラレ
日清紡ホールディングス
平岡織染
松岡

化学工業
石川樹脂工業
岩谷瓦斯
エースジャパン
NOK
NBCメッシュテック
大阪有機化学工業
花王
花王ロジスティクス
川研ファインケミカル
クレハ
住友化学工業
住友精化
星光PMC
第一工業製薬
第一三共ケミカルファーマ
大正製薬
大日精化工業
田岡化学工業
DIC
東亜合成横浜工場
東北東ソー化学
東洋インキSCホールディングス

東和薬品
日触テクノファインケミカル
日新製薬
ニプロ
ニプロファーマ
日本触媒
長谷川香料
フロイント産業
ベリンガーインゲルハイム製薬
水澤化学工業
三井化学
三井化学分析センター
三菱ガス化学
三菱ケミカル
三菱重工環境・化学エンジニアリング
ライオン

石油製品・石炭製品
出光興産
ENEOS
東亜石油
富士石油

鉄鋼業
山陽精機
JX金属

金属
東洋製罐
大和製罐

一般機械器具
京都製作所
オプテックス工業
クレオ
斎藤マシン工業
昭和真空
シンクロン鶴岡工場
ダイキン工業
ツガミ
椿本チエイン
THK
トガシ技研
トノックス
日本精工
フジテック
山形航空電子
山本製作所

電気機器機械器具
池上通信機
ASEジャパン
かわでん
JVCケンウッド山形
SCREEN SPEサービス
スタンレー鶴岡製作所
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
TDKエレクトロニクスファクトリーズ

T D K 庄内
電源開発
デンソーFA山形
ハッピージャパン
パナソニックアプライアンス
浜松ホトニクス
日立情報通信エンジニアリング
フアナック
ミネベアミツミ
ユネテック

輸送用機械器具
SUBARUテクノ
ティービーアール
トヨタ自動車東日本
マーレエンジンコーポネンツジャパン

精密機械機器
アキム
アライドマテリアル
オリエンタルモーター鶴岡事業所
コニカミノルタジャパン
テルモ
東北エプソン
ニシカワ
日本電子山形
日立ハイテクフィールディング

その他
アリオテック
OKIサーキットテクノロジー
王子マテリア釧路工場
クアーズテック
高研
田中貴金属グループ
日東電工
日本ゼオン
前田製管
松ヶ岡ガラス工業
ミドリオートレザ
レンゴ
卸売・小売
アイリスオーヤマ
アマゾンジャパン合同会社
ヴィノスやまざき
早坂サイクル商会
富士ゼロックス神奈川

運輸・通信
ソフトバンク
日本線路技術
東日本旅客鉄道

電気・ガス・水道
JERA
東京ガス
東京水道
東北電力

日本原子力発電
公務
自衛隊一般曹候補生
サービス業
アイ・エス・ビー
アイフォーコム
アウトソーシングテクノロジー
アクロホールディングス(アクログループ)
アルファシステムズ
イシダ
ウナルステクノロジー
エッチ・アイ・シー
NHKテクノロジーズ
NSD
NTT東日本グループ会社
NTTファシリティーズ
キヤノンアネルバ
キヤノンメディカルシステムズ
京セラコミュニケーションシステム
財団法人東北電気保安協会
サンリツオートメーション
JR東日本メカトロサービス
シバタインテック
第一工業
タマディック
テコム
デジタルテクノロジー
東京エレクトロングループ
東杜シーテック
東北環境開発
成田空港給油施設
日情システムソリューションズ
日産オートモーティブテクノロジー
日信電子サービス
ネットワークシステムズ
ハイマックス
パナソニックLSエンジニアリング
パナソニックシステムソリューションズジャパン
日立アドバンストシステムズ
富士通ネットワークソリューションズ
富士フィルムメディカル
プレステージ・インターナショナル山形BPOガーデン
マッシュライフラボ
松村エンジニアリング
水資源機構
三菱地所プロパティマネジメント
三菱電機ビルテクノサービス
メンバーズ
山形東亜D K K
ヨロズエンジニアリング
レゾナント・システムズ
YCC情報システム

※太ゴシックは、県内就職した企業名です。

進 学（編入学） Advanced Studies（University, Vocational School）

本科卒業後さらに学問追求を希望する場合は、大学の3年に編入学することができます。60以上の大学が高専からの編入学を受け入れており、複数の国立大学の編入学試験を受ける機会があるだけでなく、在学中の成績により推薦入試を受験することができます。



就職進学資料室

進学先一覧 List of Advanced Studies（University, Vocational School）

大 学 名	第54回卒業生 (令和2年度)	第55回卒業生 (令和3年度)	第56回卒業生 (令和4年度)	左記以前の進学先
長岡技術科学大学	12	6	13	岩手大学
豊橋技術科学大学	2	1	1	福島大学
室蘭工業大学	1	1		宇都宮大学
北海道大学		1	1	茨城大学
弘前大学		2	1	東京大学
秋田大学	1	1	1	東京工業大学
山形大学	2	2	2	金沢大学
東北大学			2	福井大学
群馬大学		2		山梨大学
筑波大学		1		奈良女子大学
千葉大学	1	1	1	愛媛大学
埼玉大学		1		島根大学
東京農工大学		1		山口大学
お茶の水女子大学			1	宮崎大学
電気通信大学		2		琉球大学
新潟大学	2	3	2	会津大学
信州大学	1			都留文科大学
神戸大学	1			函館工業高等専門学校専攻科
京都工芸繊維大学		1		釧路工業高等専門学校専攻科
九州工業大学		1		富山高等専門学校専攻科
鶴岡工業高等専門学校専攻科	21	17	19	岐阜工業高等専門学校専攻科
公立千歳科学技術大学	1			都立産業技術高等専門学校専攻科
新潟工科大学		1		東北公益文科大学
千葉工業大学			1	文教大学
帝京大学	1			東海大学
愛知工業大学			1	日本大学
新潟コンピュータ専門学校	1		1	東洋大学
新潟看護医療専門学校村上校		1		東京電機大学
埼玉コンピューター&医療事務専門学校	1			東京農業大学
東京福祉専門学校		1		東京情報大学
名古屋大原学園大原簿記医療観光専門学校岐阜校		1		新潟経営大学
大阪芸術大学			1	新潟医療福祉大学
計	48	48	48	金沢工業大学
				仙台大学
				新潟食料農業大学
				大東文化大学
				H A L 東京他

進 学（大学院） Advanced Studies（Graduate School）

専攻科で所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すると、学士（工学）の学位が取得でき、大学院の受験資格を得ることができます。

大学院進学先一覧 List of Advanced Studies（Graduate School）

大 学 院 名	第17回修了生 (令和2年度)	第18回修了生 (令和3年度)	第19回修了生 (令和4年度)	左記以前の進学先
山 形 大 学 大 学 院		1		北海道大学大学院 室蘭工業大学大学院 会津大学大学院 東京工業大学大学院 新潟大学大学院 信州大学大学院 京都大学大学院 九州工業大学大学院 宇都宮大学大学院 首都大学東京大学院
東 北 大 学 大 学 院	2	2		
長岡技術科学大学大学院	1		3	
埼 玉 大 学 大 学 院		1	1	
筑 波 大 学 大 学 院	1	2	1	
豊 橋 技 術 科 学 大 学		1		
北陸先端科学技術大学院大学		1		
奈良先端科学技術大学院大学		1		
慶 応 義 塾 大 学 大 学 院		1		
九 州 工 業 大 学 大 学 院			1	
情報セキュリティ大学大学院			1	
計	4	10	7	

卒業後の資格 Certification after Graduation

資 格	取 得 受 験 資 格 等 (関係法令)
第 二 種 電 気 主 任 技 術 者	本校創造工学科電気・電子コースにおいて、通商産業省令第52号第7条第1項各号の科目を修めて卒業し、その後5年以上電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用に従事した者（電気事業法第44条、昭和40年通商産業省令第52号第1条）
第 三 種 電 気 主 任 技 術 者	本校創造工学科電気・電子コースにおいて、通商産業省令第52号第7条第1項各号の科目を修めて卒業し、その後2年以上電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用に従事した者（同上）
第 一 種 ボ イ ラ ー ・ タービン主任技術者	創造工学科機械コースを卒業し、発電用のボイラー又は蒸気タービンの工事、維持又は運用の実務経験を8年以上（内、圧力5,880キロパスカル以上の発電用のボイラー又は蒸気タービンの工事、維持または運用に関する実務経験が4年以上）有する者（同上）
第 二 種 ボ イ ラ ー ・ タービン主任技術者	創造工学科機械コースを卒業し、発電用のボイラー、蒸気タービン、ガスタービン又は燃料電池設備の工事、維持又は運用に関する実務経験を4年以上有する者（同上）
甲 種 危 険 物 取 扱 者	化学に関する学科もしくは課程を修めて卒業した者（消防法第13条の3第4項）（受験資格）
火 薬 類 製 造 保 安 責 任 者	本校で工業化学に関する学科を専修して卒業した者（火薬類取締法施行規則第77条）（受験科目一部免除）
三 級 自 動 車 整 備 士	高等専門学校において自動車に関する学科を修めて卒業した後、自動車の整備事業に関して6カ月以上の実務経験を有する者（自動車整備士技能検定規則第19条）（受験資格）
毒 物 ・ 劇 物 取 扱 責 任 者	創造工学科化学・生物コースを卒業した者は、製造業、販売業等の施設から届出をすれば、毒劇物取扱責任者となる。（毒物及び劇物取締法第8条、毒物及び劇物取締法施行規則第6条）
そ の 他 の 資 格	●大学編入学試験を受ける資格（学校教育法第122条） ●電気工作物検査官の資格（電気事業法施行令第44条）創造工学科機械コース、電気・電子コースを卒業した者

16. 学 寮 Dormitory

本校の学寮は「鶴鳴寮」と呼ばれ、約400名が入寮しています。女子寮は、地域からの強い要望により平成15年度に開設され、現在77名が入寮しています。

本校学寮では、模範的な寮生「指導寮生」が後輩の生活や勉学の指導にあたっているほか、学寮スタッフが寮生の生活をサポートしています。

また、寮生の自治会として「寮生会」が組織されており、各種行事の立案及び運営を行っていて、年間を通して、寮祭、体育大会等の行事が企画され楽しく実施されています。学寮では、いつも互助・互譲の精神をもちながら、明るい活気ある寮になるように努めています。



鶴峰寮管理棟玄関

入寮状況 Number of Boarders

令和5年5月1日現在

区 分	創造工学科	コ ー ス 別 内 訳			
		機 械 コ ー ス	電 気・電 子 コ ー ス	情 報 コ ー ス	化 学・生 物 コ ー ス
第1学年	103 (23)				
第2学年	92 (18)	19 (1)	29 (2)	22 (8)	22 (7)
第3学年	81 (18) ②	18 (2)	22 (1)	23 (7) ①	18 (8) ①
第4学年	68 (12) ②	21 (1) ①	12 (1)	15 (4)	20 (6) ①
第5学年	56 (6) ②	9	15	15 (1) ①	17 (5) ①
計	400 (77) ⑥	67 (4) ①	78 (4)	75 (20) ②	77 (26) ③

()内は女子学生数、○内は留学生数 (内数)

1か月当り寮生負担経費 Monthly Dormitory Expenses

寄 宿 料	個 室	800円 月額
	複数人居室	700円 月額
寮 費	12,000円 月額	
給 食 費	1,184円 日額	
そ の 他	冷暖房費	4,000円 月額
	寮生会費 (年額)	2,400円 (4月納付)
	入寮費	3,000円、寮生会入会金 300円 (いずれも入寮時のみ)



1年生勉強会(2021)



居室(3人部屋)



寮生体育大会(2021)



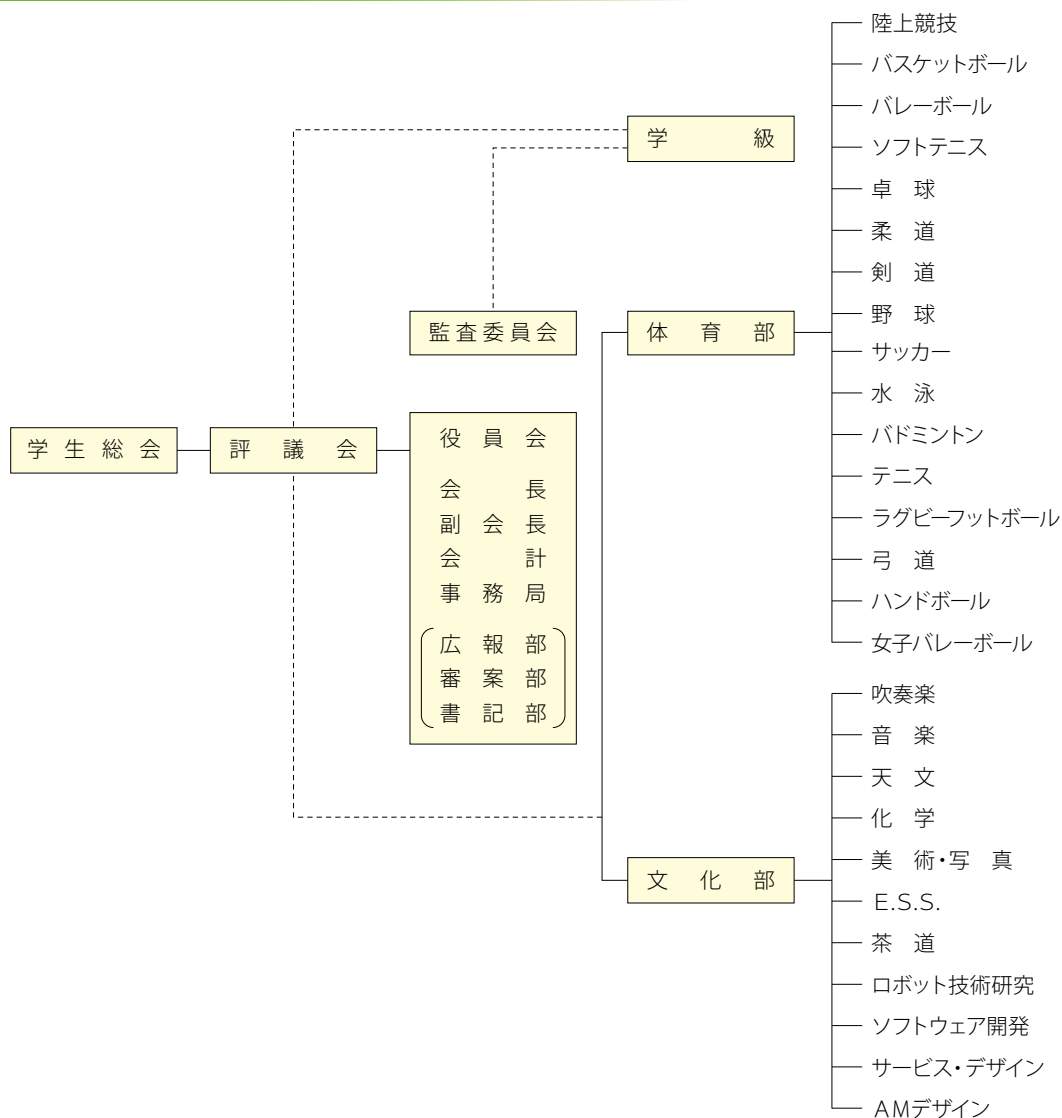
学寮食堂

17. 学生会 Student Council



本校には学生の自発的な活動を通じてその人間形成を助長し、高専教育の目的達成に資することを目的として「学生会」が組織されており、文化祭や各種行事などの企画を実施しています。また、27の体育部と文化部が所属しており、高等専門学校体育大会や各種コンテスト等に参加しているほか、1年生から3年生は、高等学校総合体育大会などの高校大会にも出場をしています。

組織図 Organization Chart



全国高専体育大会(バレーボール)



東北地区高専体育大会(野球部)



吹奏楽部のミニサマーコンサート

18. 学 校 行 事

College Calendar

※令和 5 年 5 月 1 日現在。諸事情により変更する場合があります。

前期 (2023 年度)

- 4 1日(土)～9日(日) 春季休業
8日(土) 入学式
10日(月) 始業行事
11日(火) 前期授業開始
20日(木) 開校記念日
- 5 20日(土) 専攻科入学試験 (推薦)
23日(火) 校内体育大会
- 6 14日(水)～16日(金) 前期中間試験
- 7 1日(土)～2日(日) 東北地区高専体育大会
8日(土) 専攻科入学試験 (学力・社会人)
29日(土)～9月3日(日) 夏季休業
30日(日) 中学生一日体験入学①
- 8 24日(木) 編入学試験
19日(土)～9月1日(金) 全国高専体育大会
- 9 19日(火)～22日(金) 前期末試験
30日(土) 中学生一日体験入学②



後期 (2023 年度)

- 10 2日(月) 後期授業開始
8日(日) ロボットコンテスト東北大会 (秋田高専)
14日(土)～15日(日) プログラミングコンテスト本選 (福井高専)
28日(土)～29日(日) 高専祭
- 11 26日(日) ロボットコンテスト全国大会 (両国国技館)
- 12 6日(水)～8日(金) 後期中間試験
23日(土)～1月8日(月) 冬季休業
- 1 9日(火) 授業開始
13日(土) 入学試験 (推薦)
- 2 6日(火)～9日(金) 卒業研究発表会 (5年)
11日(日) 入学試験 (学力)
14日(水)～19日(月) 学年末試験
22日(木) 終業行事
23日(金)～3月31日(日) 学年末休業
- 3 15日(金) 卒業式・修了式



CO-OP教育成果発表会



中学生一日体験入学



高専祭



校内体育大会



親子で楽しむ科学フェスタ



テクノパラメディック

19. キャンパスマップ Campus Map

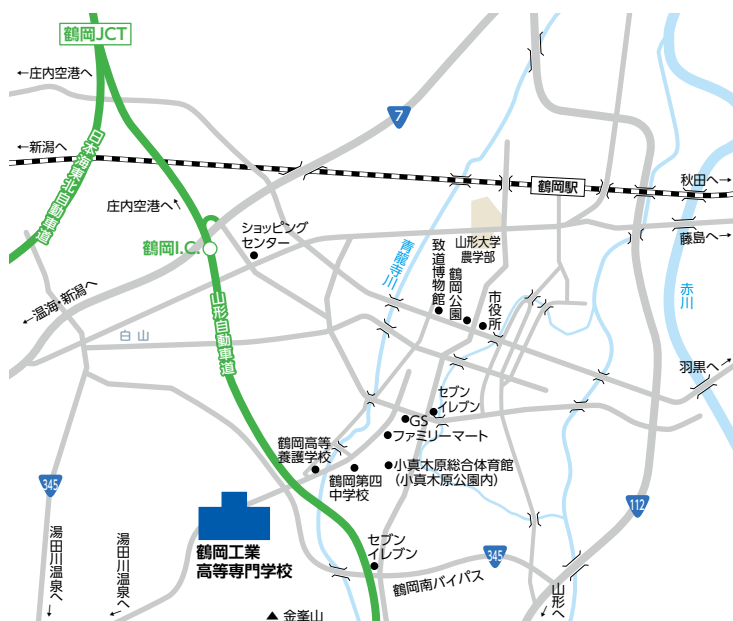


土地・建物面積 Campus Area

令和5年5月1日現在

区 分	土 地 (㎡)	建 物		備 考		
		構造	延面積(㎡)			
校 舎			14,248	1号館 6,881 2号館 2,290 3号館 1,069 4号館 672	5号館 786 6号館 503 7号館 1,111 8号館 936	
総合メディアセンター 厚生会館 総合情報センター 地域連携センター 機械実習工場 熱機関実験室 課外活動室	39,600	R 4 R 2 R 1 R 3 R 1 R 1 S 1	1,665 732 304 492 745 165 166			
体 育 施 設			2,403	第1体育館 1,068 第2体育館 884 武道館 365	弓道場 86	
そ の 他			1,463	校舎間渡廊下 ボイラー室, 守衛室, 車庫, 倉庫, 受変電室等		
寄 宿 舎	14,046		9,058	1寮 1,340 2寮 871 3寮 1,723 4寮 1,094 5寮 788	6寮 314 7寮 1,596 管理棟 1,146 渡り廊下 186	
運動場敷地	44,621					
その他の用地	11,976			法地、山地		
計	110,243		31,441			
職員宿舎 12戸			669			





高専制度創設60周年

鶴岡工業高等専門学校への道順

- ◎JR 羽越本線鶴岡駅下車 約 5.5 km
 - ①JR 鶴岡駅から庄内交通バス湯田川温泉行で 20 分
国立高専前下車
 - ②JR 鶴岡駅から車で約 15 分
- ◎庄内空港から車で約 30 分
- ◎庄内空港から庄内交通空港連絡バス鶴岡市内行で 30 分
JR 鶴岡駅前乗換 湯田川温泉行で 20 分
国立高専前下車



独立行政法人国立高等専門学校機構
鶴岡工業高等専門学校

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104

●総務課 TEL(0235)25-9014 FAX(0235)24-1840
●学生課 TEL(0235)25-9025 FAX(0235)25-8195

URL <https://www.tsuruoka-nct.ac.jp> E-mail s-soumu@tsuruoka-nct.ac.jp

